

---

# 2021（令和3）年度事業報告書

---



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

## <目 次>

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| I. 2021年度事業計画への取り組み概要          | 1  |
| II. 重点事業への取り組み                 | 7  |
| III. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策       | 11 |
| IV. 広報戦略で今年度取り組んだ施策            | 21 |
| V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策     | 23 |
| VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組んだ施策 | 25 |
| VII. 各種事業の取り組み                 | 26 |
| VIII. 参考（規程等改正一覧）              | 48 |
| IX. ボーイスカウトエンタープライズ事業報告        | 49 |

# I. 2021年度事業計画への取り組み概要

## 1. 2021年度事業スローガン

2021年度は、日本連盟創立100周年を目指した長中期計画を踏まえ、前年度に引き続き、「活動的で自立したスカウトを育てよう!!」～日本連盟創立100周年を目指して～として、施策と事業に取り組んだ。

## 2. 2021年度成果目標

下記の事項を成果目標として、重点施策と重点事業を展開した。

### (1) 仲間の増強化

- ① 野外活動の優位性をアピールし、積極的に子どもの親への理解を広げる。
- ② 親の望む子どもの育成に寄与し、仲間づくりを進める。

2020年度文部科学省委託事業に引き続き、ボーイスカウト独自の事業として「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、2022年3月31日現在で32県連盟328会場、6,336人（一部、延期で4月実施）の一般児童の参加申込みあり、本運動の普及については一定の成果があった。

### (2) 活動の活性化（中途退団抑止）

- ① 仲間を尊重し、将来にわたり共に歩む人間関係を育成する。

全団調査2021において中途退団理由別の人数を集計した結果、カブ隊での退団理由の第1位は「(塾など)学業優先」となった。ビーバー隊では前回同様「その他の活動優先」となり、カブ隊の理由の第2位は「その他の活動優先」で、ボーイスカウト以外の活動が選ばれている傾向は変わらなかった。

コロナ禍によりスカウト同士が触れあう機会がオンラインに偏重していったことから、あらためて、スカウトの、集団での活動や生活を通じた相互の関わり合いが、より良い人間関係を作り、健全な成長へとつながるよう、指導者が各活動の「教育的なねらい」に留意し、スカウト活動への興味を失わず、将来にわたり信頼し合える仲間作りに取り組むことが肝要である。

- ② 全国各地でスカウト運動活性化戦略セミナー等の開催と団への支援を行う。

昨年度に続き、団支援・組織拡充委員会、社会連携・広報委員会、中途退団抑止特別委員会の3委員会によるオンデマンド型セミナー「あなたの団を元気に！スカウト運動活性化戦略セミナー」を、県連盟によっては参加者の役務や奉仕経験などに合わせて一部コンテンツの内容を修正した上で計19回開催した。

- ③ ローバースカウトの活動を支援する。

日本連盟コミッショナーより各県連盟コミッショナーを通じて全県連盟にRS部門担当者（コミッショナー）の設置を要請した。また、RCJ運営委員会正副議長との意見交換から、次年度への支援体制について検討を行った。

また、「人生の岐路に立つ君へ」事業として、対象となる高校3年生年代のスカウト1,650人に、日本連盟から直接、総長からの手紙、団支援・組織拡充委員会からのお知らせ（転居するスカウトへの支援）を発送した。

## 3. 重点施策

### (1) これまでの施策のまとめ

#### 1) 財政再建及び組織改革に関する基本方針

- ① 財政強化に向け、助成金強化を織り込んだ「新・財政ビジョン」を策定する
- ② 事務局新体制に移行するとともに、事業や業務の見直しによる予算の効率化を進める
- ③ エンタープライズの経営は更なる健全化とスカウト用品経営会議の下で収益を向上させる。
- ④ 高萩スカウトフィールドの活用改善に向け、特別委員会により具体化施策を策定する。
- ⑤ 理事会の各種会議体の役割を明確にし、迅速な経営執行を可能とする。
- ⑥ 日本連盟の経営情報の更なる透明化に向け、ホームページの刷新、情報の伝達方法の改善を図る。

#### 2) 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

2022年度の日本連盟創立100周年までに達成する長中期計画については、今年度で6年目を迎え、

以下の12項目の行動計画を進めた。具体的な取り組みは、11ページから20ページの一覧表を参照。

- ① コミッショナーの充実 ② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)
- ③ 指導者養成 ④ 地域コミュニティづくり ⑤ プログラムの見直し ⑥ 登録制度の見直し
- ⑦ スカウティングにおける成人の役割 ⑧ 情報伝達手段の刷新 ⑨ 組織体制の検討
- ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ ⑪ 公益事業の取り組み ⑫ 野外活動施設の確保

### 3) 加盟員拡大・組織拡充・中途退団抑止に向けた取り組み

加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の3項目を重点的に取り組んだ。

#### ①加盟員獲得に向けた広報戦略の展開・スカウト活動のユニークさをアピール

新規加盟員獲得に向けて、広報委員会が主軸となっている「新広報戦略 10本の矢」に引き続き取り組み、現在では主流となっているSNSやWEBサイトを活用した各種事業を通じてスカウト運動の特徴をPRし、社会の耳目に触れることに注力した。

#### ②団診断による団への支援と新団設立への取り組み

2020年度末(2021年3月末日現在)の加盟登録データでは、全国1,856団中、Sカテゴリー16団(0.86%)、Aカテゴリー82団(4.42%)、Bカテゴリー267団(14.38%)、Cカテゴリー685団(36.91%)、Dカテゴリー806団(43.43%)となっており、Cカテゴリー団とDカテゴリー団を合わせると80.34%となっていることから、今年度第1回全国県連盟コミッショナー会議に示し、自県連盟の状況把握に努めることと、各団固有の問題点の抽出やカテゴリー特有の課題を分析し、より実情に合った支援策の構築に努めることとした。

新団設立への取り組みについては、団支援・組織拡充委員会において、組織拡充モデル県連盟事業の枠組みで高知県連盟においては2022年夏頃を目途に、また、大分県連盟においても別府大学ローバースカウト隊の発団に向けて、それぞれ当該県連盟と協働して準備を進めている。

#### ③中途退団抑止のための支援

これまで行ってきた全団調査2019、2020の結果から、中途退団抑止のためには「上進のタイミング」がポイントとなっている。全団調査において、加盟登録データから学年別のスカウト数・新規入団数・中途退団数を集計したところ、新規入団はほとんどがカブ隊までで終わるが、中途退団はローバー隊まで続いている傾向が顕在化し、退団者数が入団者数を上回ることで、スカウト数の減少が起きている。

中途退団者は、上進の学年で退団するというだけでなく、上進時期の近い月で退団している。とりわけ、カブ隊からボーイ隊への上進時に退団者が多いのは、ボーイスカウトの本格的な活動を知らずにこの運動から離れているということになる。このことは、運動として十分に使命を果たせておらず、この背景について考察を深めると、ボーイスカウトに対する保護者のイメージと、教育を提供している側のイメージにギャップが存在することがわかり、これを埋める必要があると考えられる。

このことから、中途退団抑止特別委員会では、団の運営者があらためてスカウト運動の本質的な特徴を理解し、青少年の健全育成に資するスカウト団となるための一助として「step UPカード」を制作し、団委員会・団会議の活性化に向けてホームページへの掲載準備に取り組んだ。

### 4) 安定した運営

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の5項目への取り組みを進めた。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強
- 財政ビジョンへ取り組み
- 世界・地域との連携
- オンライン会議等の活用促進

#### (2) 100周年記念事業の準備

日本連盟創立100周年まで1年となる記念事業の様々な計画の検討を進めた。

- 記念事業の準備
- 第18回日本スカウトジャンボリー(18NSJ)の準備

#### (3) 新長中期総合計画(長期戦略計画)の策定

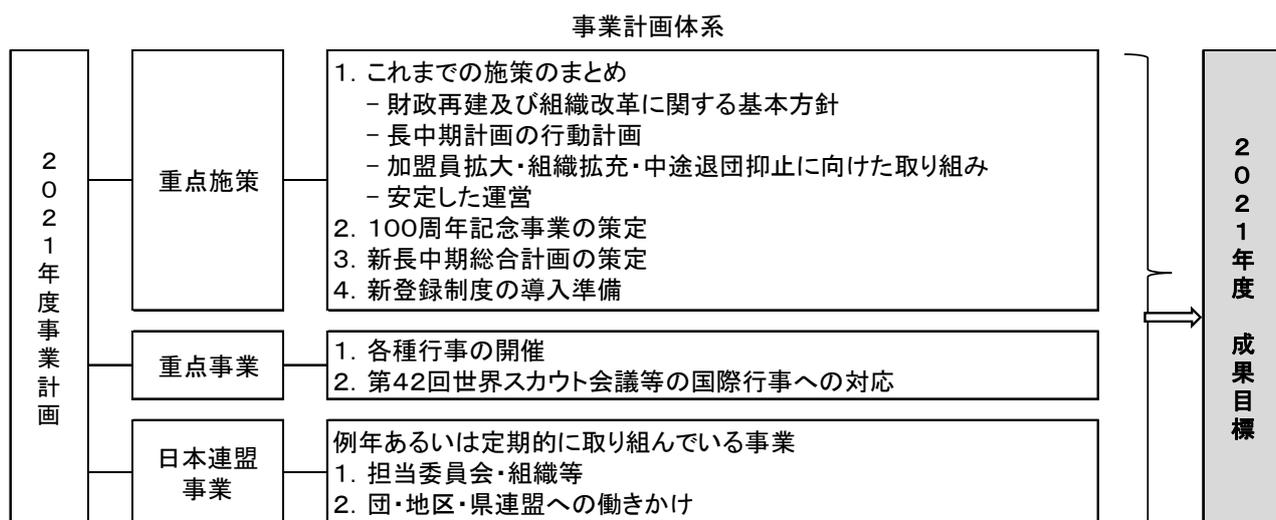
日本連盟創立100周年となる2022年度以降の長中期総合計画の策定の検討を開始した。策定にあた

っては、青少年プログラム、アダルトリソース、加盟員拡大、組織、財政、社会連携・広報、国際等、全ての分野を網羅した長期的な展望を策定することとした。

#### (4) 新登録制度の導入準備

今後、加盟員の金銭的負担を増やすことなく、我が国における最大の教育運動であるスカウト運動を今後も維持、発展させるため登録制度に関する抜本的な改革が必要となる。様々な主体と共に歩み、地域に根差したスカウティングを目指して、①スカウト運動の普及・発展のために多様な参加方式を確立させ、②加盟登録料に依存した財政基盤を改善するために会員の種別と納入方法を見直すと同時に、2023年度登録に向けて、新しい加盟登録コンピュータシステムの導入を目指すこととした。

## 事業体系



## 4. 新型コロナウイルス感染症の対応

新型コロナ感染拡大に伴い、政府の基本方針に則り、感染拡大防止の取り組みを次の通り対応した。

- ①政府の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置を受けて、4月27日に日本連盟コミッショナー名で県連盟コミッショナー宛に地域状況に応じた対応に関する注意喚起文書を発信した。
- ②6月1日に「日本連盟施設の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」を発表し、6月4日にコロナ禍における那須野営場および高萩スカウトフィールドの利用に関する遵守事項を日本連盟のHPに公開した。
- ③6月29日に全国の県連盟コミッショナー宛に福嶋日本連盟コミッショナーより日連発第20-294-1号文書により「コロナ禍におけるスカウト活動の展開について」をガイドラインと共に発信し、各地域で感染状況などに配慮しつつ安全計画を徹底し、可能な限りスカウトたちが実際に集い、活動する機会を積極的に模索するようお願いした。
- ④日本連盟は7月26日に富士特別野営2021に今夏の開催を見送り開催延期を決め、申込みのあった県連盟と参加予定者に連絡するとともに、HPに掲載した。
- ⑤10月5日に福嶋日本連盟コミッショナー名で「コロナ禍におけるスカウト活動の展開について」文書を日本連盟ホームページに掲載し、引き続き各地域では安全対策を十分に配慮し、活動されるようお願いするとともに、改めて感染状況などを注視しつつ、可能な限りスカウトたちが実際に集い、活動する機会を積極的に模索するようお願いした。
- ⑥1月25日に都道府県連盟の県連盟コミッショナー及び事務局長宛に福嶋日本連盟コミッショナーより日連発第21-908-1号「新型コロナウイルス感染への対応について（注意喚起）」文書により、各地域での活動実施（または活動自粛）を適切に判断するようお願いした。

<参考：政府の方針>

- ◇政府は4月1日に「まん延防止等重点措置」を4月5日から5月5日までの1カ月間、大阪府、兵庫県、宮城県に適用することを発表し、1府2件では大阪市、神戸市、西宮市、尼崎市、芦屋市、仙台市及び宮城県内全域に適用した。
- ◇政府は4月9日に「まん延防止等重点措置」を4月12日から東京、京都、沖縄の3都府県に適用することを決定した。東京都は5月11日まで23区と6市に、京都府は5月5日まで京都市に、沖縄県は5月5日まで沖縄本島の9市に適用した。
- ◇政府は4月16日に「まん延防止等重点措置」を4月20日から5月11日まで埼玉、千葉、神奈川、愛知に適用することを決定した。これで「重点措置」の対象は10の都府県となった。
- ◇政府は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、4月23日に東京、大阪、兵庫、京都の4都府県を対象とした3回目の緊急事態宣言を4月25日から5月11日まで適用することを決定した。また、同日愛媛県に対し4月25日から5月11日まで「まん延防止等重点措置」の対象に愛媛県を適用することを決めた。県は措置区域を松山市とした。
- ◇政府は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、5月7日に東京、大阪、兵庫、京都の4都府県を対象とした緊急事態宣言の5月11日まで期限を5月31日まで延長するとともに、愛知、福岡にも5月12日から対象地域に加えることを発表した。

まん延防止等重点措置についても、期限を5月31日まで延長するとともに、北海道、岐阜、三重を5月9日から追加し、宮城については、5月11日の期限をもって対象から外すこととした。これによって、「宣言」の対象は、東京、大阪、兵庫、京都、愛知、福岡の6都府県に、「重点措置」の適用は、北海道、埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重、愛媛、沖縄の8道県に拡大された。
- ◇政府は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、5月14日に北海道、岡山、広島を3道県を対象に、5月16日から31日までの期間、緊急事態宣言を出すことを決定した。また、「まん延防止等重点措置」を群馬、石川、熊本の3県にも適用し、期間は5月16日から6月13日までとした。これによって、緊急事態宣言の対象地域は東京、大阪、兵庫、京都、愛知、福岡の6都府県に、16日から北海道、岡山、広島の3道県が加わり、9都道府県に拡大された。（期限はいずれも5月31日まで）

「まん延防止等重点措置」の適用地域は、群馬、石川、熊本の3県が追加され、10県となった。（期限は、埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重、愛媛、沖縄の7県は5月31日、追加された群馬、石川、熊本の3県は6月13日まで）
- ◇政府は5月21日に新型コロナウイルス対策で9都道府県に出している緊急事態宣言について、5月23日から6月20日までの期間、沖縄県を追加することを決定した。また、まん延防止等重点措置を適用してきた愛媛県は、感染状況が改善しているとして、5月22日をもって解除することも決めた。

これにより、宣言の対象地域は、北海道、東京、愛知、大阪、兵庫、京都、岡山、広島、福岡、沖縄の10都道府県に拡大され、重点措置の適用地域は群馬、埼玉、千葉、神奈川、石川、岐阜、三重、熊本の8県となった。
- ◇政府は5月28日に新型コロナウイルス対策で北海道、東京、愛知、大阪、兵庫、京都、岡山、広島、福岡の9都道府県に出されている緊急事態宣言について、5月31日の期限を沖縄への宣言と同じ6月20日まで延長することを決定した。また「まん延防止等重点措置」についても埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重の5県の期限を5月31日から6月20日まで延長することを決めた。一方、群馬、石川、熊本の重点措置は6月13日の期限を延長せず、それまでに解除を目指すことになった。
- ◇政府は6月17日に東京や大阪など10都道府県に出している新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言について、沖縄県を除く9都道府県で期限の6月20日で解除することを正式に決めた。

解除後、北海道、東京、愛知、大阪、兵庫、京都、福岡の7都道府県は宣言に準じた「まん延防止等重点措置」に切り替え、適用期間は7月11日までとした。病床逼迫が続く沖縄県は宣言を7月11日まで延長した。岡山、広島県は重点措置に移行せず解除となった。

一方、6月20日が期限の埼玉、千葉、神奈川の首都圏3県への重点措置も7月11日まで延長し、岐阜県と三重県は解除した。
- ◇政府は7月8日に感染の再拡大が続く東京都に対し、7月12日から8月22日まで4回目の「緊急事態宣言」を出すとともに、沖縄県に出されている「緊急事態宣言」を8月22日まで延長することを決定した。また、「まん延防止等重点措置」は、埼玉、千葉、神奈川、大阪の4府県では、8月22日まで延長し、北海道、愛知、京都、兵庫、福岡の5道府県は、7月11日の期限をもって解除することにした。これによって8月22

日までの間、宣言の対象地域は、東京と沖縄の2都県に、重点措置の適用地域は、埼玉、千葉、神奈川、大阪の4府県となる。

- ◇政府は7月30日に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言の対象地域に埼玉、千葉、神奈川、大阪の4府県を追加する他、北海道、石川、兵庫、京都、福岡の5道府県に、まん延防止等重点措置を適用し、期間は、いずれも8月2日から8月31日までとするとともに、東京と沖縄の宣言の期限も、これにあわせて延長することを決めた。
- ◇政府は8月5日に新型コロナウイルス感染状況の悪化を受け、福島、茨城、栃木、群馬、静岡、愛知、滋賀、熊本の8県を「まん延防止等重点措置」の適用地域に追加し、期間は8月8日から8月31日までとすることを決定した。これによって、重点措置の適用地域は、北海道、石川、兵庫、京都、福岡の5道府県から、13道府県に拡大された。
- ◇政府は8月17日に新型コロナウイルス感染、とくにデルタ株が猛威をふるう状況を受け、「緊急事態宣言」の対象地域に、茨城、栃木、群馬、静岡、京都、兵庫、福岡の7府県を追加するほか、「まん延防止等重点措置」について、宮城、山梨、富山、岐阜、三重、岡山、広島、香川、愛媛、鹿児島県の10県に新たに適用し、期間は8月20日から9月12日までとすることを決定した。これに合わせて8月31日までとなっている6道府県の宣言と6道県の重点措置の期限も9月12日まで延長した。これにより、宣言の対象地域は13道府県に、重点措置の適用地域は16道県に拡大された。
- ◇政府は8月25日に新型コロナウイルス感染拡大に伴い、東京や大阪など13道府県に出されている「緊急事態宣言」の対象地域に、北海道、宮城、岐阜、愛知、三重、滋賀、岡山、広島の8道県を「まん延防止等重点措置」から「緊急事態宣言」として追加するほか、「まん延防止等重点措置」を、高知、佐賀、長崎、宮崎の4県に新たに適用する方針を決定した。期間は、いずれも8月27日から、これまで対象となっている地域と同じく9月12日までとした。今回の追加で宣言は21都道府県、重点措置は12県となり、全国の33都道府県で宣言か重点措置が適用された。
- ◇政府は9月9日に、9月12日までを期限とする新型コロナウイルスに関する「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」について、次の通りとすることを発表した。

「緊急事態宣言」を9月30日まで延長するのは、北海道、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、広島、福岡、沖縄の19都道府県、「緊急事態宣言」を9月12日で解除し、「まん延防止等重点措置」に移行し9月30日までとするのは、宮城、岡山の2県、「まん延防止等重点措置」を9月30日まで延長するのは、福島、石川、香川、熊本、宮崎、鹿児島県の6県で、宮城と岡山の2県を加えて8県、「まん延防止等重点措置」を9月12日で解除するのは、山梨、富山、愛媛、高知、佐賀、長崎の6県となる。
- ◇政府は9月28日に19都道府県の「緊急事態宣言」と8県への「まん延防止等重点措置」について、期限となる9月30日までで、すべて解除することを決定した。
- ◇政府は、新型コロナウイルスの急速な感染拡大を受けて、1月7日に広島、山口、沖縄の3県に「まん延防止等重点措置」を1月9日から1月31日まで適用することを決定した。今回の重点措置の適用は、2022年9月30日に解除されて以来となった。
- ◇政府は1月19日に、新型コロナウイルス・オミクロン株の急激な感染拡大を受けて、東京、埼玉、千葉、神奈川、群馬、新潟、愛知、岐阜、三重、香川、長崎、熊本、宮崎の13都県に「まん延防止等重点措置」を1月21日から2月13日まで適用することを発表した。これによって重点措置の適用地域は、1月31日までとなっている広島、山口、沖縄の3県から16都県に拡大されることになった。
- ◇政府は1月25日に、新型コロナウイルスに関する「まん延防止等重点措置」を1月27日から2月20日まで、北海道、青森、山形、福島、栃木、茨城、静岡、石川、長野、大阪、京都、兵庫、岡山、島根、福岡、大分、佐賀、鹿児島県の18道府県に適用することを決定した。これによって重点措置の適用地域は34道府県に拡大されることになった。

また既に重点措置を適用している広島、山口、沖縄の3県についても期限を2月20日まで延長することを併せて決定した。
- ◇政府は2月3日に、新型コロナウイルス対策で和歌山県に「まん延防止等重点措置」を2月5日から2月27日まで適用することを決定した。同県への適用は初めてとなり、これによって重点措置の適用地域は35都道府県となった。
- ◇政府は2月10日に、1月23日から2月13日まで新型コロナウイルスに関する「まん延防止等重点措置」を適用している埼玉、千葉、東京、神奈川、群馬、新潟、岐阜、愛知、三重、香川、長崎、熊本、宮崎の13

都県を3月6日まで延長することを決めた。また、新たに高知に対して2月12日から3月6日まで「まん延防止等重点措置」を適用することを決定した。これによって重点措置の適用地域は36都道府県となる。

◇政府は2月18日に山形、島根、山口、大分、沖縄の5県への「まん延防止等重点措置」は2月20日までの期限で解除することを決定した。この解除はオミクロン株が拡大して以降初めてとなった。

一方、北海道、青森、福島、茨城、栃木、石川、長野、静岡、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、福岡、佐賀、鹿児島県の16道府県への「まん延防止等重点措置」は2月20日の期限を3月6日まで2週間延長した。2月27日までの和歌山も3月6日まで1週間延長した。

これによって、重点措置の適用地域は31都道府県となった。

◇政府は3月4日に、3月6日に期限を迎える31都道府県への「まん延防止等重点措置」について、北海道、青森、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、石川、静岡、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、香川、熊本の18都道府県の期限を3月21日まで延長することを決定した。

一方で、福島、新潟、長野、三重、和歌山、岡山、広島、高知、福岡、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島県の13県については期限の3月6日で重点措置を解除することを発表した。

## II. 重点事業への取り組み

日本連盟では、事業展開するにあたり重点事業を以下に示し進めた。事業の展開においては、国際目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成に寄与できるよう取り組んだ。

### 1. 各種行事の開催

5月に静岡県熱海市で全国大会、8月に富士特別野営2021及びCJKBベンチャープロジェクト、9月にRCJ・ROUTE、1月に日韓スカウト交歓計画、3月に富士スカウト代表表敬等の行事を開催した。

#### (1) 全国大会 (2021年度Web全国大会)

2021年度全国大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で静岡県熱海市での開催を中止し、次のとおりオンラインで実施した。

名称：令和3年度Web全国大会～100周年まであと、〇マイル～

期日：5月29日(土) 全体会 12:00～13:00 YouTube 配信

5月30日(日) テーマ集会 10:00～12:00、13:30～15:30 WEB会議システム

視聴：「全体会」の再生回数は、土日の2日間で約4,000回、「全国スカウト教育会議(テーマ集会)」には合計で約900人が参加

備考：全国大会開催に合わせ、以下のとおり諸会議を29日に開催

- ・10:00-12:00 定時評議員会
- ・13:30-15:30 県連盟代表者会議
- ・15:30-17:30 全国ローバースカウト会議(RCJ)年次総会
- ・16:00-18:00 全国県連盟コミッショナー会議

#### <全体会>主な内容

オープニングアクト/水野理事長挨拶/御手洗総裁推戴式/コロナ禍の中でも躍動する「団の活動」紹介/表彰式/100周年記念事業・第18回日本ジャンボリー進捗について/奥島総長メッセージ/静岡県連盟100周年を振り返る

#### <テーマ集会>

30日(日) 10:00～12:00

- ①社会ニーズ急増中！期待に応えられる団を目指そう
- ②指導者も楽しんで活動できる！だれでも研修に参加できます！
- ③やってみよう！セーフ・フロム・ハーム学習教材
- ④ローバースカウト部門の紹介と全国ローバースカウト会議の取り組み

30日(日) 13:30～15:30

- ⑤隊の活性に向けたスカウトハンドブックの活用
- ⑥次世代につなげるスカウト運動を考える
- ⑦「SDGsとスカウティングの現在と未来」

#### (2) RCJX (オンライン開催)

野営大会として昨年度から開催を予定していたが、コロナ禍により事業実施形態をオンラインに転換し、RCJ結成10周年を記念して「RCJX(ten)」と銘打ち、今までにない様々な可能性を秘めた大会として、この未知な要素を未知数の「X」として表し、「交差する・超える」等の意味があるTransの略語でもあることから、RCJ構成員同士やゲスト参加者、社会と交わる機会を提供し、地域を超えたスカウト活動をしていくという意味も込め、バーチャル空間システムを利用したこれまでとは違った趣向による大会を開催した。準備に於いてはローバースカウトによる実行委員会を編成し、その準備もほとんどをオンライン会議により進めた。

#### 【事業の内容】

開催日：令和3年11月23日(火/祝)～28日(日) 6日間

開催方法：オンライン開催(バーチャル空間システムOviceを利用)

参加者：国内RS198人、非加盟員7人、台湾10人、韓国5人 計220人

テーマ：「Hello, World!」



成果と評価：本大会は過去のフォーラムや野営大会と全く異なるインターネット上の仮想空間への参加形態で開催したRCJ初の試みであったが、大会の4つの目標は全て達成することができた。活動のオンライン化によりスカウト同士の心の繋がりが希薄になる中、新たな活動形態を活かして創意工夫を凝らした多くのプログラムを通して、未来に生きるスカウト同士の友情を育むことができた。同時に、劇的に変化する社会においてローバースカウトがActive Citizen（積極的に行動する市民）として活躍し、大会後に自身や自身が所属する団や地域に貢献する上で必要な資質を養う大きな機会となった。

(3) CJKベンチャープロジェクト【中止】

(4) 日韓スカウト交歓計画【中止】

(5) 富士特別野営2021

8月に開催を予定していた富士特別野営については、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、2022年3月に高萩スカウトフィールドにて開催した。

コロナ禍での開催ということを考慮し、生活はソロテントに個別調理としたことに加えて、集合前2週間の健康管理と行動記録を徹底したうえで出発前の抗原検査を実施するなど事前の対策も徹底したうえで実施した。

プログラムとしては、全体としての想定のもとで各プログラムを展開した。メインとなるプログラムでは、高萩スカウトフィールドの特長を活かし、未開拓の山中で2泊をテント無しで一人で過ごすというブッシュクラフトによる生活を通じて、参加者が自分自身を見つめ直す機会を提供した。

【事業の内容】

開催日：令和4年3月26日（土）～31日（木）5泊6日

場 所：大和の森 高萩スカウトフィールド

参加者：スカウト31人、指導者14人、ローバースカウト7人、日本連盟役員3人 計55人

参加スカウトの指導者からの声（抜粋）：

多くのスカウトと同様、新型コロナのため、活動が停滞、大好きなキャンプも登山も思ったように実施できず、進歩の速度もかなり遅れてしまいました。

ラストチャンスの高3の2021年夏の参加もとうとう断念せざるを得ないのがっかりしていましたが幸い3月に延期となり、絶対行く！と進歩のモチベーションもアップし、期限内単章授与も実現できました。

(6) 富士スカウト代表表敬

富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に実施した。

2021（令和3）年1月1日から12月31日までに富士スカウト章を受章した23県連盟132人（うち75人は新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置により取得）のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト93人により実施した。

【秋篠宮皇嗣殿下とのご接見】

日 時：2022（令和4）年3月31日（木）10:00～11:40（オンライン）

参加者：代表スカウト23県連盟47人

【首相官邸・文部科学省表敬】

日 時：2022（令和4）年3月31日（木）15:15～15:30（首相官邸）

16:30～16:50（文部科学省）

参加者：代表スカウト18県連盟46人

決意の言葉、司会、弥栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行った。

ご接見に参加するスカウトには2週間程前に事前研修を行い、接続する機器や通信状況の確認のほか、声の大きさや目線の動きなどオンライン特有の立ち振る舞いについて共通認識をもつための機会を設けた。

表敬訪問に参加するスカウトは、訪問日前日に集合し1泊2日の準備訓練を実施した。

ご接見では、富士スカウトたち一人ひとりが、自身が挑戦した社会貢献や高度な野外活動プロジェクトに

ついて殿下へ説明し、殿下からのご質問にお答えするなど貴重な時間をいただいた。

訪問先では、松野博一内閣官房長官より岸田内閣総理大臣の励ましの言葉の伝達、末松信介文部科学大臣から親しく励ましの言葉を賜り、そして富士スカウトOBである山本ボーイスカウト衆議院議員（ボーイスカウト振興国会議員連盟理事・事務局次長）からもスカウトへメッセージをいただいた。

参加者アンケート等により、スカウトにとってこれまでの活動を振り返り、改めて自信をもつ機会となったことがうかがえた。

昨年度の事業対象者は22県連盟100人に対し今回132人で、富士スカウト章取得者はベンチャースカウト全体（5,885人）の約2.2%である。

2021（令和3）年度（4月1日～3月31日）の富士スカウト章受章者は、22県連盟120人となり、2020（令和2）年度受章者17県連盟60人から2倍となり、新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置により例年並みに取得者が戻りつつある。

## 2. 第42回世界スカウト会議等の国際行事への対応

2021年度に実施された国際会議・コース等は、2020年度に引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止対策として、すべてオンラインで開催され、日本連盟からの参加は65件で、2019年度の22件からオンライン開催となった2020年度に45件、そして今年度と大幅に増加している。

### (1) 第10回アジア太平洋地域（APR）サミット会議

会議期間：2021（令和3）年4月4日（日）に開会式

4月6日（火）～4月11日（日）の14時～16時にビジネスセッション

会議場所：オンライン会議

対象者：APR各国連盟のチーフコミッショナー、国際コミッショナー、事務局長の3人に、今回は各国連盟より2人まで参加可能

代表団：福島正己日本連盟コミッショナー、嶋田寛国際コミッショナー  
大久保秀人事務局長、他4人、合計7人

### (2) 第42回世界スカウト会議

会議期間：2021（令和3）8月25日（水）～29日（日）

\*当初は、2020年8月24日（月）から28日（金）までエジプトで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、1年延期され初めてのオンラインでの開催となった

開催場所：オンライン開催

テーマ：Bridging the World（世界をつなぐ）

代表団：水野正人理事長（首席代表）、他19人、合計20人

### (3) 第27回アジア太平洋地域（APR）スカウト会議

会議期間：2022年2月15日（火）～2月21日（月）

\*2月17日・20日を除く5日間

\*当初、2021年9月に台湾で開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、APR各国スカウト連盟による電子投票で2022年2月の開催に延期された。その後、新型コロナウイルスの影響が収まらないことから、台湾連盟からの申し出により、オンラインでの開催に変更された。

開催場所：オンライン開催

テーマ：Adapting to a Changing World（変化する世界への適応）

代表団：水野正人理事長（首席代表）、他19人

### (4) 海外派遣事業

本年度は、昨年度からの新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響により、当初予定されていた6事業を中止し、世界およびAPRスカウトユースフォーラムはオンラインでの開催となった。

#### ① 第14回世界スカウトユースフォーラム派遣

開催期間：8月18日（水）～8月22日（日）5日間

参加者：代表 荒岡草馬（福岡）、小池さくら（愛知）

オブザーバー 武田 蒼（山形）、俣野 陽（東京）、北村梨沙（島根）

#### ② 第10回APRスカウトユースフォーラム派遣

開催期間：2022年2月9日（水）～2月13日（日）\*2月11日を除く4日間

参加者：代表 小林千乃（兵庫）、小池さくら（愛知）  
オブザーバー 北村梨沙（東京）、大竹晴登（東京）

(5) 招聘事業

海外派遣と同様、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響により、当初予定されていた3事業を前年度に続いて中止した。

日韓スカウト交歓計画については、韓国連盟との調整の結果、2023年1月は同年8月に韓国で開催の第25回世界スカウトジャンボリー準備を考慮して中止し、2024年1月に再開を予定することとした。

新型コロナウイルスの感染拡大防止策として中止とした招聘事業

- ① CJKベンチャープロジェクト派遣（日本開催）
- ② オーストラリア交換留学生受け入れ
- ③ 日韓スカウト交歓計画

### Ⅲ. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策

#### 1. コミッショナーの充実

|     |                                       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019    | 2020     | 2021 | 2022 | 主担当            |
|-----|---------------------------------------|------|------|------|---------|----------|------|------|----------------|
|     |                                       | H28  | H29  | H30  | R1      | R2       | R3   | R4   |                |
| 1-1 | 【2019年度更新】<br>地区コミッショナーへの支援           |      |      |      | ○       | →        | →    | →    | コミッショナー<br>チーム |
| 1-2 | 【2019年度更新】<br>コミッショナー研修の充実            |      |      |      | ○       | 試行       | 実施   | →    |                |
| 1-3 | 【2019年度更新】<br>団担当コミッショナーの検証           |      |      |      | ○       | 実施<br>検証 | →    |      |                |
| 1-4 | 【2019年度更新】<br>団診断に基づく各県連盟への支援         |      |      |      | ○<br>実施 | →        | →    | →    |                |
| 1-5 | 【2019年度更新】<br>コミッショナー制度(県・地区)の全般的な見直し |      |      |      | ○<br>検討 | ○        | →    | →    |                |

前年度までの達成状況を整理し、次の5項目に全国県連盟コミッショナーと連携して取り組み、全国県連盟コミッショナー会議の検討テーマに含みながら展開した。

##### 1-1について

- ・年間を通じて、日本連盟コミッショナー方針として、「団診断C・D団への支援」を掲げ、各県連盟コミッショナーにより当該団の現状把握を行い、各団(隊)への支援策の検討、実施を展開してきた。
- ・全国県連盟コミッショナー会議にて隊指導者のニーズの活用を促すに留まり、どの程度活用が促され、隊指導者のラウンドテーブルの満足度が向上できたかの調査までは出来なかった。
- ・BVS部門からVS部門まで、普段の集会で留意していることが、「教育的ねらい」より「楽しさ」を重視していることがわかり、このことを全国県連盟コミッショナー会議で強調することで、ラウンドテーブルの意義を考える機会になった。
- ・しかしながら、全団調査を複数年間継続で行ったことで、地区コミッショナーへのラウンドテーブル活性化の動機付けにはなった。

##### 1-2について

- ・「ベーシックトレーニング」が3県連盟(千葉・滋賀・福岡)で開設された。
- ・コロナ禍により予定されていた8コースの内、5コースが中止となった。
- ・「県連盟コミッショナー課程」では39県連盟のコミッショナーの参加があった。
- ・任務別研修としたことで、役務に沿った研修が行えるようになった。

##### 1-3について

- ・団担当コミッショナー研修の充実については、コロナ禍により検証が行えなかったため、引き続き指導者養成委員会と協働して「コミッショナー制度の全般的な見直し(1-5)」と合わせて検討を進めた。

##### 1-4について

- ・全国大会や全国県連盟コミッショナー会議における過去の調査の分析発表については、スカウティング誌2021年9月号にも紹介することができた。
- ・団審査として「全団調査」を団指導者が記載し、この内容を元に地区コミッショナーや団担当コミッショナーが団へ訪問して、団の良い点や改善点、共同する点などを相談するツールとするよう、全国県連盟コミッショナー会議を通じて促した。

##### 1-5について

- ・県連盟コミッショナーを「県コミッショナー」と改称し、教育面及び指導面で県連盟を代表する役割を明確に示した。
- ・団担当コミッショナーの役務を明確にし、以下の通りとする。  
(1)本連盟及び県連盟の方針等に従い、効果的にプログラムが実施されるように団委員会及び隊指導者に協力し、助言及び指導並びに援助を行う。

(2) 団委員長、隊指導者の意見や要望を県内コミッショナー会議に反映するとともに本連盟、県連盟、地区等の情報を伝達する。

- ・上記団担当コミッショナーの任務の重要性を鑑み、当該コミッショナーを設置しない県連盟においても、その機能を果たせるよう以下の通りとする。

(1) 団担当コミッショナーを選任しない場合、県コミッショナーは、県副コミッショナー、地区コミッショナー、地区副コミッショナー等にその任務を付与する。

## 2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

|     |             |   | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当      |
|-----|-------------|---|------|------|------|------|------|------|------|----------|
|     |             |   | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |          |
| 2-4 | 抑止力の検討と広報活動 | 危害を起こさぬ機運づくりと広報活動(PR動画発信・機関誌記事掲載等)による繰り返しの周知行動を起こす。 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | SfH安全社・広 |

### 既に達成した課題・整理した課題

|     |                                |                               |   |   |   |    |    |  |  |            |
|-----|--------------------------------|-------------------------------|---|---|---|----|----|--|--|------------|
| 2-2 | 問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備 | 問題解決のため、受付窓口を設定し、対処する組織整備を行う。 | ○ | ○ | ○ | 完了 |    |  |  | SfH安全コミ社・広 |
| 2-3 | 普及、啓発のための研修、ツール開発。Eラーニングの活用    | 普及を図るためツールを作成し、提供する。          | ○ | ○ | ○ | ○  | 完了 |  |  | SfH安全      |

2-4「抑止力の検討と広報活動」として以下の取り組みを展開した。

#### 1. 機関誌への安心安全講座の連載

5月号：2019年度そなえよつねに共済 事故データ分析

7月号：東日本大震災10年～地震列島日本に暮らす～

9月号：「自分だけは大丈夫」と思っていませんか?～正常性バイアスと 事故・災害～)

11月号：ご存知ですか? 救急箱の新常識～お互いを守るための提案～)

1月号：え! いけないの? 「お菓あるある」NG事例

3月号：本当にそれでいいのかな?～計画書作成、下見実施、保険加入のあるある～

機に応じた話題提供で指導者の安全への意識づけを行った。

#### 2. 各種フォーラム・セミナー運営ハンドブックの見直し

今年度から日本連盟主催「安全促進フォーラム」「SfH推進フォーラム」がオンライン開催できるよう内容を見直し、実施展開することができた。

同様に、県連盟・地区等でもオンラインで開催できるよう下記内容の見直しを行った。

(1) 安全普及フォーラム運営ハンドブック・資料の改訂

・12月に全県連盟宛に配布

(2) SfHセミナー(基本編・実践編)運営ハンドブック・資料の改訂

・9月に全県連盟宛に配布

#### 3. 県連盟SfH担当者研修会の実施

昨年度初めて実施したが、事後アンケートの結果、高評価だったため、今年度も継続して開催し、日本連盟施策およびSfHに対する理解を深め、県連盟におけるSfHを推進する体制の構築の促進と取り組みの強化を図った。

日時：2022年3月13日(日) 14:00～17:00

開催：オンライン(ZOOM)

参加者：県連盟セーフ・フロム・ハーム担当者他 41 県連盟58人

スタッフ：日本連盟「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会委員 4人

研修内容：§1 日本連盟の施策について(45分間)

・県連盟対応ガイドライン、SfH推進フォーラム、SfHセミナー(基本編・実践編)  
SfH学習教材、SfH県連盟評価表、登録前研修

§2 研究討議(90分間)

・SfHセミナーを効果的に開催するには、登録前研修の今後の在り方

§3 質疑応答(20分間)

#### 4. 県連盟SfH評価の実施

昨年度初めて実施したが、まだまだ各県連盟のSfHの取り組みが低いことがわかり、継続して実態を見

る必要があるため今年度も実施した。

#### 5. 登録前研修

全指導者（RSを含む）が、登録前研修としてセーフ・フロム・ハームを学ぶことで、より安心安全な活動を提供することができ質の高い活動となっている。昨年度から新規と継続の2区分で実施し、今回は飲酒を焦点にした設問とし、また、今回は研修免除の要件を明確に示した。

これらをEラーニングまたはテキスト版として取り組めるようにホームページを改修した。

#### 6. 安全ハンドブックの発刊

数年にわたり作業し、4月15日付で初版を発刊した。

また、共済事業の安全普及啓発活動費を用いて次の取り組みを行った。

##### 1. 安全促進フォーラムの開催

4会場（2回が対面型、2回がオンライン型）で開催し、120人が参加した。

事故データ分析やそなえよつねに共済と賠償責任保険の説明、裁判所事例に学ぶ安全対策、有効な安全対策を考えるための原因分析を通じて安全意識の向上を図った。事後アンケートから、各県連盟での安全普及フォーラム開催への促進となっている。

##### 2. SfH推進フォーラムの開催

4会場（全てオンライン型）で開催し、141人が参加した。

このフォーラムを通じて「セーフ・フロム・ハーム」についてのより深い理解と実際に問題が発生した時の基本的な対応方法について理解することができるようになった。事後アンケートにより、県または地区内でのセミナー開催の促進となっている。

##### 3. SfHガイドラインの改訂

改訂の必要を認識し検討を開始したが、改訂までたどり着けなかったため、次回への継続案件とした。

##### 4. 機関誌安全記事合本制作

記事は「Ⅲ.長中期計画 2. 質の高い活動のための方策」の一環として実施しているが、これらを冊子としてとりまとめ日本連盟ホームページに掲載した。これにより、安全に関する情報がひとまとまりになり、スカウト運動だけでなく広く青少年活動に携わる指導者に対して、各種研修・会議の資料や活動計画書、安全計画書を作成する際の資料としての活用や安全な活動への意識付けを行うことができた。情報が膨大になってくるため、利用者の利便性を考え、分冊とした。

##### 5. 登録前研修のホームページ改修

内容作成は「Ⅲ.長中期計画 2. 質の高い活動のための方策」の一環として実施しているが、これらをホームページに掲載していつでも取り組める体制を構築した。

### 3. 指導者養成

|            |  | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当       |
|------------|--|------|------|------|------|------|------|------|-----------|
|            |  | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |           |
| 3-1<br>3-2 | 1. ボイスカウト部門の質的向上を図る<br>2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 指導者養成     |
| 3-5        | 指導者の更新研修の確立  |      | ○    | ○    | ○    | ○    | 見直し  |      | ディレクターチーム |
| 3-6        | 任務別研修の実施(必要な人に必要な訓練を行う<br>【完了していればこの行を削除】)                       |      | ○    | ○    | ○    | ○    | 試行   | 実施   | タスクチーム    |
| 3-7        | トレーナー制度の改革   | 検討   | 検討   | 一部実施 | 一部実施 | 実施   | 実施   | 実施   | タスクチーム    |

#### 既に達成した課題・整理した課題

|     |   |                                      |      |        |
|-----|---|--------------------------------------|------|--------|
| 3-3 | 基礎訓練を全課程で共通化  | 全県またはブロックでのコースの実施。                   | 完了した | 指導者養成  |
| 3-4 | ウッドクラフトコースの開設(長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神(スピリット)の体得。) | スカウト技能の修得及びプログラムへの展開。コース内容の研究・開発、実施。 | 完了した | タスクチーム |

### 3-1～3-3について

- ・現行の隊指導者基礎訓練課程を6年間実施し、その間に毎年各県連盟ディレクターから寄せられた報告を踏まえて評価を行い、セッション内容等を見直すこととした。参加者にとって分かりやすい展開となるよう、全国共通で同じ展開ができる運営内容として改善した。スカウトコースについては、重複するセッション内容を整理し、セッション内容や名称、入れ替え等を実施し、スムーズな展開ができるよう改訂した。
- ・団委員研修所については、コース前半のセッションは基本的な団の運営について理解してもらい、後半は、実際の運用について理解していただくような流れにするよう、セッション名称の変更と入れ替えを実施した。
- ・本年度のウッドバッジ研修所は、基本型での開設は、スカウトコース23コース、課程別研修BVS課程17回、CS課程22回、BS課程21回、VS課程17回となった。一括型での開設は、1コースとなった。団委員研修所は3コースの開設となった。どの研修においても隊指導者としての任務遂行への意識を高めさせ、研修終了後も自己研鑽が必要なことから、継続した支援が必要である。
- ・3-3「基礎訓練を全課程で共通化」は2018平成30年度で完了したので、2019年度事業計画から削除した。

### 3-4について：完了

- ・2019年度に定型訓練として日本連盟開設でウッドクラフトコース第1期を開設したことを受けて、今年度は県連盟での開設を3コース予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、令和2年度に引き続き全てのコースを中止とした。

### 3-5について

- ・研修受講の必須性（規程化）や更新期間・研修内容などを含め、引き続き検討を行っている。まずはコミッショナー任務別研修を対象とすることで検討している。

### 3-6について

- ・指導者の役割別研修として、コミッショナー研修を改定した。コミッショナーベーシックトレーニングを3コース、任務別研修地区コミッショナー課程を3コース、任務別研修県連盟コミッショナー課程を1コース試行した。
- ・団担当コミッショナーへの研修については、引き続き検討する。
- ・令和3年度の試行を受けて令和4年度に規程化し、定型訓練として実施していく。

### 3-7について

- ・トレーナー研究集会のあり方やその内容について、見直しを引き続き検討する。
- ・トレーナーの役割やカテゴリー区分を整理し、見直しを引き続き検討する。

## 4. 地域コミュニティづくり

|     |                                     |   | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当      |
|-----|-------------------------------------|---|------|------|------|------|------|------|------|----------|
|     |                                     |   | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |          |
| 4-1 | スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化           | 防災キャラバンの全国展開を活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。                       | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      | 社・広      |
| 4-2 | 未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり     | 登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発団させる。                                   | ○    | ○    | ○    | ○    | ⇒    | ⇒    | ⇒    | 団支援・組織拡充 |
| 4-3 | 日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催 | 全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      | 役員事務局    |

### 既に達成した課題・整理した課題

|     |                  |                                  |      |  |  |  |  |  |  |                |
|-----|------------------|----------------------------------|------|--|--|--|--|--|--|----------------|
| 4-4 | 防災活動の地域連携による取り組み | 国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。 | 完了した |  |  |  |  |  |  | SfH安全<br>防災・危機 |
|-----|------------------|----------------------------------|------|--|--|--|--|--|--|----------------|

### 4-1について

- ・社会連携・広報委員会では、全国防災キャラバンを今年度も全47都道府県連盟の協力を得て、イオンモールほか過去最多の77会場での実施を計画し、新コンテンツとしてハンディキャップのある人々への防災活動のありかたについて一緒に考える「思いやり防災」を追加して取り組んだ。しかし、新型コロナウイルス感染防止の観点から開催できたのは20箇所ほどにとどまったが、その他にもパネルの展示のみを

行うなど、非接触のかたちをとりながら防災啓発とスカウト運動の浸透に務めた。また、オンラインでの全国担当者会議を催し、ノウハウの共有や意欲向上につなげることができた。

また、内閣府等が主催する「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」が11月に岩手県釜石市で行われ、岩手連盟からの協力を得ながら本キャラバンのプログラムを展開した。

なお、2022年度は再び全国でのリアル開催を目指して調整に着手。100周年事業のひとつと位置づけ、この運動の歴史などを紹介するコンテンツを準備するとともに、文部科学省の後援を再び得る手続きを進めながら従前の開催数を超える予定での展開に向け準備を進めている

#### 4-2について

- ・高知県連盟は、組織拡充モデル県連盟事業の枠組みで、2022年夏頃を目途に新団（第14団）発団に向けて最終調整中。
- ・2021年4月30日現在で、加盟登録数が200人以下の青森、秋田、山形、高知、徳島の5県連盟の内、秋田と高知については、組織拡充モデル県連盟事業の枠組みで引き続き対応している。青森、山形、徳島の3県連盟については、今年度内に県連盟役員と意見交換し、今後の方向性を検討している。

#### 4-3について

- ・自治体首長を訪ねて協力を要請している。

### 5. プログラムの見直し

|     |                     | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021          | 2022 | 主担当                   |
|-----|---------------------|------|------|------|------|------|---------------|------|-----------------------|
|     |                     | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3            | R4   |                       |
| 5-4 | 企業と連携したバッジシステムの共同開発 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○             | ○    | プログラム<br>社・広<br>(5-4) |
| 5-5 | 全ての部門での野外活動の拡大      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○             | ○    |                       |
| 5-6 | 教育部門を次の4部門への移行検討    | ○    | ○    | ○    | 継続   | ⇒    | 検討<br>継続<br>中 |      |                       |

#### 既に達成した課題・整理した課題

|     |                                |                                 |                                   |                 |
|-----|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 5-1 | BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し        | 両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。 | タスクチームによる検討をまとめつつ、5-6に統合して検討を進める。 | プログラム<br>タスクチーム |
| 5-2 | 現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し | 研究者を交えて検討を行う。部門の設定。             |                                   |                 |

#### 5-4 「新チャレンジ章」

- ・平成30年度から、社会連携・広報委員会とプログラム委員会との協働により、カブスカウトを対象とした企業・団体協力による「新チャレンジ章」（呼称：コラボレーションバッジ）を展開している。
- ・今年度は、スカウトがサイバーセキュリティーを理解し、デジタル社会での責任と正しいふるまいを理解することを目指した「サイバーセキュリティーヒーロー」1章を追加し、合計7種類のプログラムを提供した。年度開始前の1月から情報提供し、今年1月までの申し込みにより6,000枚を超える配付を行った。
- ・新設の「サイバーセキュリティーヒーロー」は、作成分2,500枚のうち、1,884枚を配付した。配付および取り組みが好調だったことから、2022年度に記章類の追加作成を行う予定である（他1章含む）。
- ・次年度に向けて新たに「ハイウェイナビゲーター」1章（NEXCO 東日本）を追加するとともに、取り組みが少ない県や地域での活用を働きかけていくこととしている。

#### 5-4 「環境教育プログラム「Earth Tribe」

- ・平成24年度から日本連盟でも展開した「世界スカウト環境プログラム」がWOSMにて提供終了し、これまでの自然保護のほか、プラスチックやエネルギー課題に取り組むプログラムを組み込んだ新たな環境教育プログラム「Earth Tribe」の提供が始まることから、2020年度よりタスクチームが編成され、各種資料の翻訳や日本として展開する際のプログラム案が検討された。
- ・教育プログラムとしての運用に向けて、当委員会において内容の再検討を行い、隊プログラムの展開方法の検討、進級課目との連動、教育規程の改正について協議を行った。
- ・世界スカウト環境プログラムからの移行にむけて、コミッショナーと連携し、各種バッジの製作や着用位置

の検討を行い、現行の環境プログラムのバッジ着用位置を軸とした運用として最終調整を行った。

- ・指導者向け資料「隊長用ガイド」を作成のうえ、ウェブサイトで8月から公開を開始し、世界スカウト機構においてプログラム支援をしている世界自然保護基金（WWF）の日本支部の協力も得て、内容の充実を図った。
- ・機関誌「スカウティング」にてSDG sの取り組みとして記事執筆を行い、プログラム活用事例のほか、3種のプログラム内容について発信した。
- ・指導者を対象とした説明会を9月に開催し、オンライン視聴を含めて258人の参加があり、本プログラムの関心の高さを知ることができた。
- ・スカウトの日の協賛元である一般財団法人セブーンイレブン記念財団との協働事業において、プログラム開発の素材として本プログラムを活用し、財団のニーズである【世界課題であるプラスチック利用の教育や、多くの河川域のプラスチック放置ごみの回収および再生利用】にむけた準備が進んでいる。
- ・県連盟コミッショナーを通じた情報発信を続けたことにより、本プログラムを組み入れた県連盟独自の事業が展開されているとの報告があった。
- ・環境美化活動「スカウトの日」での展開に「Earth Tribe」の内容を活用したとの実績報告が多くあったことから、環境展示会「エコプロ」においても本プログラムの紹介を通して、対外的な告知を行った。
- ・引き続き、県連盟および各指導者に向けた情報発信を続け、プログラムの活用や各種記事の取得につながるよう支援が必要である。
- ・ウェブサイトでの各種プログラム資材の更新や、オンラインを活用した説明会の開催などを計画し、定期的に情報発信することが求められている。

#### 5-5 「進歩に関する特別措置」

- ・「Scouting Never Stops」のもと、スカウト活動意欲、とりわけ進歩に対する意欲の低下を防ぎ、進歩の歩みを止めないことを目的として、2020年5月24日に「進歩に関する特別措置」を施行した。
- ・昨年度に高校3年生に相当する年齢のスカウトが年度を超えて富士スカウト章の申請ができるよう、今年度は申請手続きの確立、県連盟コミッショナーへの周知を行った。【延長期間：2021年4月～9月末までの6か月間】
- ・特別措置に伴う延長申請件数は21県連盟から93件、その内2021年度の取得者数は18県連盟から75件であった。
- ・2021年度富士スカウト章受章者数が108件であったことから、69%が特別措置による認証であった。
- ・野外活動との関係として、以下の4項目（①選択課題である技能章の計画と報告、②地域奉仕活動の実施と報告、③単独キャンプの実施と報告、④個人プロジェクトの実施と報告）の実行に影響が大きく、期間の延長のほか、実施計画による認定を許可したことにより一定数の富士スカウト認証につながった。
- ・特別措置としての延長手続きのほか、各年代における考査に関する指針（野営など各種スカウト技能、奉仕活動）の見直しを行い、BS年代・VS年代の進歩進級の活性について協議が必要である。

#### 5-6 「部門プログラムの見直し」

- ・昨年度に実施した、部門プログラムの見直しによるBVS・CS部門の実証団（3県連盟7こ団）と、BS・VS部門の一体的運営の実証団（8県連盟16こ団）の活動をまとめた報告と部門プログラムの提案を全国県連盟コミッショナー会議にて説明した。
- ・昨年度からの検討と、前述の部門の見直しを含めたプログラム実証を踏まえて、4部門の移行ではなく現行の5部門の年齢区分を変更することで提案をまとめ、意見徴収を行った。
- ・BS・VS部門のプログラム見直し（5-1）、学年制を考慮した部門の見直し（5-2）の研究結果をふまえて課題を統合し、教育部門の見直しと移行検討（5-6）として、2021年8月の臨時県連盟コミッショナー会議で最終意見を確認したうえで、委員会としての見直しに向けた作業を行った。
- ・新型コロナウイルス感染の拡大のほか、次年度に向けた日本連盟の体制見直しに伴い、部門プログラムの見直しによる影響範囲が大きいことから、この状況下での引き続きの協議について一旦見送りとして、次年度体制に各種検討資料を申し送ることとした。
- ・BVS・CS部門のプログラム実証団の取り組みについて、年度途中の見直しについての協議見送りとなったことから、取り組みを継続している団に対して今後の隊運営の進め方について情報発信が必要である。

#### 5-6 「ジュニアリーダーの活用」

- ・BS・VS部門のプログラム見直し（5-1）にて過年度に取り組みを開始した進級課程において、ジュニアリーダーの活用と各年代での隊運営の関わりについてタスクチームを編成した。

- ・隊の運営をスカウトにおいて進める本来のスカウト活動とするためのジュニアリーダーの関わり、育成のためのキャンププログラムについて検討した。
- ・各年代のジュニアリーダーの呼称とそれぞれの役務、活動内容についてとりまとめた「ジュニアリーダーの手引き」を作成した。
- ・ジュニアリーダーを育成するためのキャンププログラム資料について、実際に運営する場合の課題などを洗い出し、タスクチーム員による検討会を行い、その内容を取りまとめた「答申書」を作成した。
- ・「ジュニアリーダーの手引き」については、ジュニアリーダーの活用について協議したのち活用できるよう、委員会において印刷入稿できる原稿として準備を進め、申し送ることとした。
- ・新進級課程の移行にともない検討を進めてきた各年代でのジュニアリーダーの呼称の活用については、日本連盟としての当該役務の活用および隊運営の連携について日本連盟コミッショナーにて継続してその運用について検討する。

## 6. 登録制度の見直し

|     |                                  |   | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当                               |
|-----|----------------------------------|---|------|------|------|------|------|------|------|-----------------------------------|
|     |                                  |   | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                                   |
| 6-1 | 隊登録できる最低スカウト人数の検討                | BSの班制教育を基準とする班(組)のあり方と最小人数を探る。            | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ⇒    | ⇒    | 団支援・組織拡充プログラム<br>コミッショナー<br>財務社・広 |
| 6-2 | 地域性を考慮した隊・団のあり方                  | 少子化による人数の少ない隊のあり方を探る。                     | ○    | ○    | ○    | ○    | ⇒    | ⇒    | ⇒    |                                   |
| 6-3 | 部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録) | 部門見直しに伴う登録の仕方、登録費等の検討をする。(BVS、RSの登録費について) | ○    | ○    | ○    | ○    | ⇒    | ⇒    | ⇒    |                                   |

### 6-1について

- ・登録制度、登録種別、登録システムの中で引き続き検討している。

### 6-2について

- ・団の統廃合が進む中、スカウト空白地域が増えており、この地域に既存の団が出張して活動を展開するサテライト的な展開について研究を行っていく。
- ・また、団の統廃合が進み、地域からスカウトの姿が消えていることは大きな課題であり、当委員会が中心になるもののコミッショナーグループや様々な常設委員会と連携して解決の方向性を検討する必要がある。

### 6-3について

- ・部門検討以降中につき、今後の検討となる。

## 7. スカウティングにおける成人の役割

|     |  |  | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当                    |
|-----|--|--|------|------|------|------|------|------|------|------------------------|
|     |  |  | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                        |
| 7-2 | インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる) | コミッショナーの依頼を受け、トレーナーの定型訓練外の活躍場所として機能させる。                          | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | コミッショナー<br>指導者養成       |
| 7-3 | 【2019年度更新】<br>県連盟単位での国際交流を戦略的に推進する       | 県連盟での国際交流を支援するため、国際活動サービスチームの強化を図る。                              |      |      |      | ○    | ○    | ○    |      | 国際                     |
| 7-4 | 【2019年度更新】<br>青年の意思決定への参画を促進する           | 各委員会へのRCJからの参画を検討する。   |      |      |      | ○    | ○    | ○    |      | プログラム<br>コミッショナー<br>国際 |
| 7-5 | 【2019年度更新】<br>APR、WOSMとの関係強化により人材育成を進める  | APRで実施している青年代表グループ(YAMG)の国内での組織化を検討する。同時にSDGsやMOPへの取り組みにより強化を図る。 |      |      |      | ○    | ○    | ○    |      |                        |

7-1、7-3～7-5は、2018年度までに一定の成果により内容を整理したため、7-2～5に更新して2019年度から取り組んでいる。

### 7-2について、

- ・呼称を「インサービス・サポート」から「任務中の支援」と変更することで、理解の促進を図ることとした。同時に、任務中の支援を実行する団委員長やコミッショナー向けの手引きを作成した。
- ・コミッショナーや団委員長が「任務中の支援」を理解し指導者への直接的な支援を行えるように、新しいコミッショナー訓練で取り扱うこととする他、団委員研修所・実修所でも取り扱うようセッション内容を見直

した。

7-3について、

- ・国際活動サービスチームは継続して編成し、オンラインを活用した活動を開始した。インターネットを活用したオンライン国際行事であるジャンボリー・オン・ジ・エア2021において世界スカウト機構から提供される情報の翻訳と国内への情報提供を行った。

7-4について、

- ・RCJ運営委員会のメンバーがスカウト教育推進会議等に出席する他、昨年度に続いて今年度もEarth Tribe推進タスクチームに参画するなど、日本連盟での参画の機会を設けている。

7-5について

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国際的な活動は2020年度に続いて延期、中止、オンライン会議への変更が行われたが、オンラインで開催の世界と地域の会議、そしてスカウトユースフォーラムに日本代表団は積極的に参加した。
- ・世界的に取り組んでいる持続可能な開発目標（SDGs）について国内での新たな環境教育プログラム「Earth Tribe」への参加が促進できるよう、機関誌「スカウティング」において取り組みのヒントや17の目標との関連について情報発信を行った。
- ・メッセンジャーオブピース（MoP）の取り組みについて、国内でのMoPコーディネーターを選任し、APR各国との定期的な情報共有の機会を設け、海外の取り組み状況など情報収集を行った。

## 8. 情報伝達手段の刷新

|     |   |   | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当               |
|-----|---|---|------|------|------|------|------|------|------|-------------------|
|     |   |   | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                   |
| 8-1 | ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる   | タスクチームを設置し、ICT活用実行に向け、取り組みを展開する。  |      |      |      |      |      |      |      | DX推進室<br>社・広<br>他 |
| 8-2 | 各県連盟向けポータルサイトによる情報発信                    | 目標<br>①紙文書や郵送費の削減と情報の迅速化を図る。<br>②TV会議等の導入により会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。<br>③全ての会議は、タブレットを使用する形式の確立。等 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |      |                   |
| 8-3 | グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有 |   |      |      |      |      |      |      |      |                   |

8. 情報伝達手段の刷新」については計画のとおり2020年度をもって完了した。

## 9. 組織体制の検討

|     |   |  | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当      |
|-----|---|--|------|------|------|------|------|------|------|----------|
|     |   |  | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |          |
| 9-1 | 長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく                       | 計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進捗を監視するチームをつくる。 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 理事会<br>他 |
| 9-2 | 23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り（「企業連携」「公益性」を意識した組織） | 企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。   | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      | 事務局      |
| 9-3 | 日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化                            | 日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。   | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 継続   |      | 事務局      |
| 9-4 | 100周年基金の設立  | 基金を設立し、社会貢献に繋がる事業を目指す。   | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 継続   |      | 事務局      |

9-1

- ・「財政再建及び組織改革の基本方針」に沿った組織体制の見直しを進めている。（詳細はP2重点施策参照）

9-2

- ・創立100周年記念事業や18NSJでの協賛やその他の協働事業等への取り組み策の検討を鋭意進めている。

9-3

- ・全国事務局長会議、県連盟代表者会議等の機会に意見交換を行っている。

9-4

- ・日本連盟創立100周年を記念して「未来の子どもたち基金」を創設することとし、このための寄付金を募

「ボーイスカウト日本連盟創立 100 周年記念募金」を 1 2 月より開始した。「未来の子どもたち基金」は、より多くの青少年に充実した体験活動を提供できるためのものとして活用することとし、特に近年取り組んできた経済的な理由で体験活動に十分に参加できない青少年、家庭をサポートする助成事業の原資として活用を行っていく。

## 10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

|      |                        |                                       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当             |
|------|------------------------|---------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|-----------------|
|      |                        |                                       | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                 |
| 10-1 | BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度 | 野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |      | 事務局<br>他        |
| 10-2 | BS教育を活かした各種研修を社会への提供   | BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      | 事務局<br>社・広<br>他 |

### 10-1

- ・ボーイスカウト独自の野外活動指導資格については、引き続き、今後の検討課題としている。

### 10-2

- ・ボーイスカウトの研修形式を活用した企業研修などの提供は、その収益性などの課題を整理しながら少し取り組みの速度を下げる方向性で検討してきており、コロナで様々な取り組みが凍結された今年度はほとんど進展を見なかったものの、高萩SF 地元の企業より引き合いもあり、次年度予算案には計画を盛り込みつつ対応を検討していくこととした。

## 11. 公益事業の取り組み

|      |                         |                             | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当                          |
|------|-------------------------|-----------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------------------------------|
|      |                         |                             | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                              |
| 11-1 | 運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入 | 組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。  | ○    | ○    | ○    | ⇒    | ⇒    | ⇒    | ⇒    | 事務局                          |
| 11-2 | 善行の日常化の推進               | 善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 継続   | 継続   | ミッション<br>プログラム<br>社・広<br>事務局 |
| 11-3 | 新しい公益事業の取り組み            | ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |      |                              |

### 11-1

- ・加盟員外への表彰を含めた維持会員年功章 2018 年度から開始している。また、創立 100 周年記念事業実行委員会と名誉会議が連携して、2022 年の 100 周年特別表彰を検討している

### 11-2

- ・PR 計画について「なろう。一人前に。」のキャッチフレーズを当年度も継続使用して「人の役に立つ」ことがボーイスカウトのアイデンティティであることを内外に発信した。

### 11-3 について

- ・ローバースカウト年代を中心とした、地域社会や国際問題について取り組む機会を創出し、議論や実践の場が必要であることを鑑みて、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいる。

## 12. 野外活動施設の確保

|      |   |  | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当                  |
|------|---|--|------|------|------|------|------|------|------|----------------------|
|      |   |  | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                      |
| 12-1 | 活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり) | 「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。                        |      | ○    | ○    | ○    | ○    | 継続   |      | 高萩SF<br>特別委員会<br>事務局 |
| 12-2 | 日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする)             | 高萩SFなどモデル野営地をつくる。  |      | ○    | ○    | ○    | ○    | 継続   |      |                      |
| 12-3 | ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大                        | (平成30年度以降の取り組み)<br>日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。              |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    |      |                      |
| 12-4 | プログラムパッケージの開発と提供  | 野外活動を重視した集会パッケージの開発                                      |      | ○    | ○    | ○    | 提供   | ⇒    | ⇒    |                      |
| 12-5 | スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供                                   | 国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。                            | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |                      |
| 12-6 | ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討                                  | 富士特別野営のスタッフや高萩SFでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                      |

### 12-1・3について

- 本年度に設置された「日本連盟資産管理等特別委員会」において、各県連盟が保有している野営場の状況調査を行ったが、野外活動施設のガイドラインや認証基準についての取り組みは行わなかった。

### 12-2・4について

- 高萩スカウトフィールドを活用したモデル野営地については、コロナ禍において「富士特別野営2021」の事業実施により展開した。

### 12-4について

- 2020年度からの「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」を引き続き呼びかけ、体験活動を行った。

### 12-5について

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、高萩スカウトフィールドにて次の2事業(委託事業)のみの実施であったが、施設の活用促進ならびに青少年の体験活動の充実を図った。
  - 11月2日(火) 高萩東小学校校外学習(小学校からの委託事業) 5年生30人
  - 11月5日(金) 高萩高等学校野外活動体験授業(高校からの委託事業) 1年生58人

### 12-6について

- 富士特別野営2021において、参加スカウトに提供するプログラムの準備作業として、ローバースカウトに対して下記の訓練を実施した。
  - 山中に設置した宿営地を網羅する実踏
  - フィールドアーチェリーの体験

## IV. 広報戦略で今年度取り組んだ施策

|      |  | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当     |
|------|--|------|------|------|------|------|------|------|---------|
|      |  | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |         |
| IV-1 | 新広報戦略「10本の矢」の継続普及                                | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |      |      |         |
| IV-2 | 新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。 |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 社会連携・広報 |

### IV-1・IV-2について

新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、社会全体の行動様式が大きく変化し、ボーイスカウトにおいても「オンライン」というものが当たり前のこととなったことなどを受け、「10本の矢」の発展的改定を進めるとともに、ウィルスの影響を受けた活動の停滞ムードを払拭するべく、当初計画にはなかった新たな取り組みにも注力することとなった。

#### (1) 全国大会 Web 配信

前年度に続き、2年連続での配信開催となった中で、キャノン本社で執り行われた御手洗総裁の推戴式を映像化して紹介するなど、映像コンテンツならではの取り組みを行い、本年 3/25 段階で再生回数はおよそ 1 万回に達することとなった。また、すべての制作作業をオンラインで行うなど、事業の幅を飛躍的に広げることができた。

#### (2) 有料 SNS 広告

これまでの無料枠とは異なり、SNS の中で絞り込んだターゲットを狙い撃ちして表示させる広告手法に 2021 年 11 月より取り組んだ。4 ヶ月間でおよそ 80 万回広告を表示させ、1 万 4,000 人以上を新たに日本連盟 Web サイトに呼び込むことができた。

#### (3) Web サイト改定・新規サイト制作

日本連盟トップページの一部改修を行い、SCOUT GEAR サイトの新設、団体概要ページの改善を行ったほか、体験希望者への誘導動線をスムーズに整えた。新型コロナ流行下での体験活動へのニーズの高まりもあり、団情報ページ経由の体験/問い合わせ希望件数（月平均）は、2019 年度の 133.5 件から、昨年度の 185.9 件を経て今年度の 207.9 件（12 月末日まで）と、飛躍的に増えている。

各団の団情報ページの活用を促すために、更新方法を記したチラシを作成し、全国に配布した。

また、日本連盟創立 100 周年記念サイトの新設の他、18NSJ 実行委員会と協働して NSJ 特設サイトの制作・運用などを行っている

#### (4) 「100人のスカウトサポーター」企画の始動

従来のボーイスカウト・アンバサダーを補完し、ボーイスカウトの知名度・期待度の可視化を進める施策として、本施策を立ち上げた。2022 年度は各県連盟からの「サポーター」の推薦を受け付けることで、各地における地域社会との連携施策としての活用も期待する。

#### (5) 「第2回全国こども体験フォーラム」の開催

前年度に続き、文部科学省から委託を受けたフォーラムを開催した。教育現場や保護者、さらに一般企業

からの声も紹介し、社会の様々な分野から本運動のような「体験活動」への期待度が高いことを発信した。当日のオンライン参加者数、配信の視聴数ともに前回は上回る数字になっている。

(6) 映画「東西ジャニーズ Jr. ぼくらのサバイバルウォーズ」タイアップ

映画の4月1日公開に向けて、撮影協力、情報公開、また、全国の小・中・高校へのポスター掲示や特設 Web サイト「ぼくサバチャレンジ」の運用など、文部科学省・国立青少年教育振興機構とのタイアップ事業に取り組んでいる。12月の情報解禁時にはツイッターのトレンドランキングで上位を独占したほか、3月のタイアップイベント開催時には、新聞6紙・テレビ4社の取材のほか、インターネットでの記事掲載総数がおおよそ500件（SNS等の再送信を含む）となるなど、全国的な話題となった。

(7) その他の取り組みについて

PR ドリームチームを経由した情報共有の強化のため、Slack を用いて日本連盟 Web サイトの更新通知が届くようにした。また、富士スカウトの魅力向上を目的にした「かつての富士スカウト」へのインタビュー企画「富士の彼方へ」の連載開始や、100周年記念曲の制作にも、スカウトソング特別委員会と協働しながら取り組んでおり、作曲を依頼した専門家の認知向上や楽曲の浸透に取り組んでいる。

(8) 日本連盟 Web サイト、公式 SNS の状況

2021年3月から2022年2月末までの1年間のデータ

<WEB サイト>

ユーザー数 595,356人（前年度562,358人、前年度比105%）

うち新規ユーザー数 578,368人（前年度543,085人、前年度比106%）

ページビュー数 3,441,487（前年度4,322,231 前年度比79%）

<SNS>

・フェイスブック ページのリーチ数 486,080（前年度比166%増）（推定値）

・Instagram 投稿のリーチ数 310,911（前年度比156%）（推定値）

・Twitter インプレッション数 431,748

※リーチ数・・・情報が到達したユーザー数。

インプレッション数・・・情報がユーザーの画面に表示された合計数。

ひとりの人に5回、同じ情報が表示されたら、リーチ数は1となるが、インプレッション数は5となる。

※今年度から始めた SNS 広告の効果も含むため、昨年度のリーチ数と単純に比較できないことに留意

(9) 主要メディア（新聞・ラジオ・テレビ・雑誌）とWEBメディアへの掲載例など

2021年3月から2022年2月末までのメディア掲載は、日本連盟で掌握できたものだけで129件あった（昨年度末187件）。

※統計手法を更新したため従前のデータとの比較はできない

## V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策

|     |  |   | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当                           |
|-----|--|---|------|------|------|------|------|------|------|-------------------------------|
|     |  |   | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                               |
| V-1 | 各年度事業計画の重点施策としての加盟員拡大への取り組み                    | 長中期計画に含まれている課題に加えて、団支援・組織拡充委員会による加盟員拡大の取り組み。              | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 団支援・組織拡充<br>社会連携・広報<br>中途退団抑止 |
| V-2 | 都道府県連盟による100周年を目指した加盟登録人数目標設定                  | 都道府県連盟による加盟登録人口見込みを毎年度分析し、必要な支援を行う。                       |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                               |
| V-3 | 各団の加盟登録人数に基づく団診断                               | 都道府県連盟へ毎年度団診断のデータを提供し、団支援の具体的な対応を進める。                     |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                               |
| V-4 | 中途退団抑止への取り組み                                   | 2017(平成29)年度のタスクチームによる検討を踏まえ、特別委員会として具体的な取り組みを進める。        |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                               |
| V-5 | 長中期計画との相乗効果                                    | 2016(平成28)年度から取り組んでいる長中期計画の相乗効果を狙った具体的な中途退団抑止策の取り組む。      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                               |
| V-6 | 県連盟訪問・支援事業の展開                                  | 中途退団抑止特別委員会、団支援・組織拡充委員会、社会連携・広報委員会の3委員会合同での県連盟への取り組みを進める。 |      |      |      |      | ○    | ○    | ○    |                               |
| V-7 | 高校3年生年代のスカウトに対して、スカウティングへの興味と関心のさらなる喚起に関する取り組み | 高校卒業を契機に進学等で住所を移動するスカウトに対して、新住所地でもスカウティングに関わるよう支援する。      |      |      |      |      |      | ○    | ○    |                               |

### V-1について

- ・「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、2021年度、32県連盟328会場で6,336人の一般児童の参加申込みあり、本運動の普及については一定の成果があった。なお、本事業からの新規加盟員については、次年度に集計する。
- ・団支援・組織拡充委員会により、「組織拡充モデル県連盟」は、8県連盟に支援を行ってきた。高知県連盟では、2022年に夏頃を目途に新団（高知第14団）発団に向けて最終調整中となっている。また、大分県連盟では3月31日現在の新規加盟登録数が、対前年度比238.46%となった。
- ・2022年1月（2021年度）は、2002年度以来20年振りにビーバースカウトの加盟登録数が前年度末の100%を超え100.46%となった（2020年度末：7,152人→2021年度末7,185人）

### V-2について

- ・2017年度に実施した都道府県連盟の100周年を目指した加盟登録人数目標に対し都道府県連盟全体の達成できていないため、スカウト運動活性化セミナー、全団調査等により支援を進めている。

### V-3について

- ・前年度に引き続き、各団の加盟登録人数に基づく団診断の結果を都道府県連盟へ提供し、団支援の対応を進めている。

### V-4について

- ・中途退団抑止特別委員会により、各種取り組みに着手した。
  - ①委員会による検討 11回
  - ②スカウト運動活性化戦略セミナーの開催（19回）
  - ③全団調査2021
  - ④保護者へのスカウト運動の理解促進検討
  - ⑤団運営支援資料「step UPカード」の作成

### V-5について

- ・これまでの各県におけるスカウト運動活性化戦略セミナーの評価や開催県連盟役員との意見交換から、参加者が、セミナーにおいて研修した知見を基に、より効果的な団・隊運営が行えるような支援資料として「step UPカード」を作成し、日本連盟ウェブページに掲載した。

### V-6について

- ・17県連盟20会場で実施した。
- ・セミナー終了後には、県連盟役員と組織拡充に関する意見交換を実施した。この中で、県連盟の現状と課題、日本連盟への要望等の聞き取りを行い、当委員会の施策の参考とし、その一部を反映させることができた。

- ・本セミナーは、3委員会が用意したコンテンツの中から、県連盟がその実情に応じて選択することになっていることから、県連盟のニーズに応えることができた。

#### V-7について

- ・昨年度（2021年3月）に発送した1,736人（内、60通は「あて所に尋ねあたりません」で事務局に戻り）の手紙を送付し、27人のスカウトから新しい住所地の団を紹介して欲しい旨の連絡があった。27人の内12人は同一県内での住所異動であったため、県連盟に対応を依頼した。15人は、都道府県を跨いだ住所異動であったため、新しい住所地の団を紹介し、全員が活動を開始した。
- ・今年度については、2022年3月2日に対象スカウト（1,650人）へ発送した。

## VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組んだ施策

|      |                   | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 主担当              |
|------|-------------------|------|------|------|------|------|------|------|------------------|
|      |                   | H28  | H29  | H30  | R1   | R2   | R3   | R4   |                  |
| VI-1 | 政策課題への取り組み        |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | 理事会<br>財務<br>事務局 |
| VI-2 | 自助努力による経済効果策      |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                  |
| VI-3 | 加盟登録料の改定          |      |      |      | ○    |      | ○    |      |                  |
| VI-4 | 今後の日本連盟の財政のあり方の検討 |      |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |                  |

今年度の重点施策として、加盟員拡大と中途退団抑止に取り組み、長中期計画、広報戦略、財政ビジョンによる相乗効果を考慮した具体策を進めた。

日本連盟100周年財政ビジョンの見直しの必要性を含み、「財政再建及び組織改革に関する基本方針」により、全ての課題に取り組み、最終報告が3月8日の第3回理事会および第2回臨時評議員会に提出された。（詳細はP2からの重点施策参照）

この「日本連盟100周年財政ビジョン」は、2022年度までの課題とし、上記を含み2017年10月理事会で承認された。2021年度までの達成状況は次のとおりである。

- VI-1-1 中途退団抑止策等への財政面施策として、2018年度から5年間、毎年800万円を予算計上している。2021年度の成果は、P.1「2021年度成果目標（2）」に示している。
- VI-1-2 共済事業への財政面施策については、2018年3月評議員会で2019年度からの加盟登録料改正とともに共済掛金1人100円の増額が承認され、1人年間900円、7カ月まで700円となり、加盟員減少による採算環境悪化に備え、事業安定積立金として繰り入れている。
- VI-1-3 特定資産取崩分積立については、2019年度から4年間で321,162千円を目標として、ボーイスカウト運動再生化対策等のための資金を含む建物補修等の特定資産に指導者1人あたり2,300円を計上している。
- VI-2-1 国債不動産化と本郷会館の賃貸化については、2018年度にスカウト会館を杉並区下井草に移転し、後楽園SAJビルとして2019年度から実施し、2021年度は約5,757万円の収益があり、連盟の運営に貢献している。
- VI-2-2 集会等参加者負担金の値上げについては、必要管理費20%を含み設定しているが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの事業が中止・延期・オンライン開催となった。
- VI-2-3 施設利用料の増収については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で利用中止期間があり、2021年度は増収に繋がっていない。
- VI-2-4 企業からの協賛金については、社会連携・広報分野で進めている。
- VI-2-5 事務局人件費の削減については、2021年度からの新体制が実施された。
- VI-3-1 加盟登録料の値上げは2019年度から実施している。
- VI-3-2 加盟登録料の総収入リンク型への移行については、想定した加盟員数に達していないため、実現できないため、新登録制度検討特別委員会で値上げを前提としない登録制度の検討を進めている。
- VI-4-1 今後の日本連盟の財政のあり方については、財務委員会で検討を行っている。

Ⅶ. 各種事業の取り組み

|                                  |                 | 担当  |                                | 関係組織     |   |   |   |
|----------------------------------|-----------------|---|--------------------------------|----------|---|---|---|
|                                  |                 | 委員会等                                      |                                | 日        | 県 | 地 | 団 |
| <b>公1: ボーイスカウト運動の教育計画の策定及び運営</b> |                 |   |                                |          |   |   |   |
| 公1                               | 11              | 教育計画の策定及び運営                               |                                |          |   |   |   |
|                                  | 11-01           | スカウト教育推進会議                                | 年間4回開催                         | コミッショナー  | ◎ |   |   |
|                                  | 11-02           | 各種委員会                                     | 8常設委員会、5特別委員会、4小委員会・タスクチーム、RCJ | 各委員会     | ◎ |   |   |
|                                  | 11-03           | 全国事務局長会議                                  |                                | 事務局      | ◎ | ○ |   |
|                                  | 11-04           | 日本連盟コミッショナー会議                             |                                | コミッショナー  | ◎ |   |   |
|                                  | 11-05           | ブロック連盟コミッショナー会議                           |                                | コミッショナー  | ◎ | ○ |   |
|                                  | 11-06           | 県連盟コミッショナー会議                              |                                | コミッショナー  | ◎ | ○ |   |
|                                  | 11-07           | 県連盟代表者会議                                  |                                | 事務局      | ◎ | ○ |   |
|                                  | 11-08           | 新年賀詞交歓会                                   |                                | 事務局      | ◎ | ○ |   |
|                                  | 11-09           | 役員国内旅費                                    |                                | 専務(局長)   | ◎ |   |   |
|                                  | 11-10           | 組織拡充モデル県連盟事業                              |                                | 団支援・組織拡充 | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-11           | 全国組織拡充担当委員長会合                             |                                | 財務       | ◎ | ○ |   |
|                                  | 11-12           | 募金事業                                      | 維持会員日より・送付物、感謝盾、維持会員証、ちらし等     | 財務       | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-13           | トモス助成                                     |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-14           | 社会連携事業                                    |                                | 社会連携・広報  | ◎ |   |   |
|                                  | 11-01           | コラボレーションバッジ                               |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-02           | 全国防災キャラバン                                 |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-03           | 難民支援プロジェクト                                |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-04           | スカウトと社会をつなぐ場所                             |                                | 社会連携・広報  | ◎ |   | ○ |
|                                  | 11-05           | 企業セミナー                                    |                                | 社会連携・広報  | ◎ |   |   |
|                                  | 11-15           | 100周年準備                                   |                                | 100周年    | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 11-16           | 「人生の岐路に立つ君へ」事業                            |                                | 団支援・組織拡充 | ◎ | ○ | ○ |
| 11-17                            | 富士章授与証・記章、記念品等  |   | プログラム                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 11-19                            | エディンバラ公アワード     |   | プログラム                          | ◎        |   | ○ |   |
| 11-20                            | 宗教章授与証          |   | 信仰奨励                           | ◎        | ○ | ○ |   |
| 11-21                            | 宗教代表者会議         |   | 信仰奨励                           | ◎        |   |   |   |
| 11-22                            | DXサミット          |   | DX推進室                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 12                               | 地球環境保全・保護及教育    | スカウトの日                                    | プログラム                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 13                               | BS活かした自然体験活動    | ワクワク自然体験あそび                               | 関係委員会                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 14                               | 教育に必要な施設の提供     | スカウト会館・那須野営場・高萩スカウトフィールド管理、公益土地管理、環境対策等   | 事務局                            | ◎        |   |   |   |
| 15                               | 集会及び講演会の開催      |   |                                |          |   |   |   |
| 15-01                            | 18NSJ開催準備       |   | 18NSJ                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 15-02                            | 13NA開催          |   | 13NA                           | ◎        | ○ | ○ |   |
| 15-03                            | 富士特別野営          |   | 富士特                            | ◎        | ○ | ○ |   |
| 15-04                            | RCJ-ROUTE(野営大会) |   | プログラム                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 15-05                            | 富士スカウト代表表敬・顕彰   |   | プログラム                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 15-06                            | スカウトソング研修会      |   | スカウトソング                        | ◎        | ○ | ○ |   |
| 15-07                            | スカウトソングワークショップ  |   | スカウトソング                        | ◎        | ○ | ○ |   |
| 16                               | 共済事業            |   | 共済                             | ◎        | ○ | ○ |   |
| 16-01                            | 共済事業            | 機関誌安全記事合本、安全促進フォーラム、SfH推進フォーラム、eラーニング等を含む | SfH・安全                         | ◎        | ◎ | ○ |   |
| <b>公2: ボーイスカウト運動の普及及び広報</b>      |                 |   |                                |          |   |   |   |
| 公2                               | 21              | BS運動の普及及び広報                               |                                |          | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-01           | 普及資料の作成                                   |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-02           | 名誉会議                                      |                                | 名誉会議     | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-03           | 表彰事業費                                     |                                | 名誉会議     | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-04           | 組織拡充(顕彰)                                  |                                | 団支援・組織拡充 | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-05           | 維持会員年功章                                   |                                | 財務       | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-06           | 写真・ムービーコンテスト                              |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-07           | スカウトライブラリー運営事業                            |                                | 事務局      | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-08           | 中途退団抑止                                    | 特別委員会、スカウト運動活性化戦略セミナーを含む       | 中途退団     | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-09           | PR戦略展開                                    | PRイベント出展、PR活動等                 | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-10           | その他広報                                     | 機関誌合本作成、編集関係                   | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
|                                  | 21-11           | キッズフェスタ                                   |                                | プログラム    | ◎ |   |   |
|                                  | 22              | 図書雑誌等刊行・電子情報                              |                                |          |   |   |   |
|                                  | 22-01           | 機関誌刊行                                     |                                | 社会連携・広報  | ◎ | ○ | ○ |
| 22-02                            | 出版物刊行           |   | プログラム                          | ◎        | ○ | ○ |   |
| 23                               | 電子媒体(インターネット)   |   | DX、社会連携・広報                     | ◎        | ○ | ○ |   |

|                           |           |  | 担当<br>委員会等     | 関係組織<br>日 県 地 団 |   |   |   |
|---------------------------|-----------|--|----------------|-----------------|---|---|---|
| <b>公3:指導者の養成</b>          |           |  |                |                 |   |   |   |
| 公<br>3                    | 31        | 指導者の養成   |                |                 |   |   |   |
|                           | 31-01     | 全国大会開催及び開催準備   | 全国大会           | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 31-02     | 新指導者養成体制の充実<br>サポートツール、指導者養成関係スタッフチーム                                | 指導者養成          | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 31-03     | 県連開設指導者訓練補助<br>ボーイスカウト講習会、ウッドバッジ研修所、団委員研修所、コミッショナー研修所                | 指導者養成          | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 31-04     | 県連盟指導者養成等補助  | 財務             | ◎               | ○ |   |   |
|                           | 31-05     | 指導者養成(日本連盟開設)<br>ウッドバッジ実修所、団委員実修所、LTC、ALTC、ウッドクラフトコース、任務別研修          | 指導者養成          | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 31-06     | トレーニングチーム<br>県連盟ディレクター研修集会、トレーナー研修集会、実修所所長主任会議、新任ALT研修会、日本連盟ディレクター会議 | 指導者養成          | ◎               | ○ | ○ | ○ |
| <b>公4:国際相互理解の促進及び国際協力</b> |           |  |                |                 |   |   |   |
| 公<br>4                    | 41        | 国際理解促進・国際協力  |                |                 |   |   |   |
|                           | 41-01     | ナショナルジャンホリー等派遣   | 国際             | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-02     | 日韓スカウト交歓   | 国際             | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-03     | オーストラリア留学生受入   | 国際             | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-04     | CJKベンチャープロジェクト日本開催   | 国際             | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-05     | 海外派遣選考   | 国際             | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-06     | 役職員海外派遣  | 国際コミッショナー      | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-07     | APRサミット会議派遣  | 国際コミッショナー      | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-08     | 世界スカウト会議派遣   | 国際コミッショナー      | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-09     | APRスカウト会議派遣  | 国際コミッショナー      | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-10     | 世界スカウト機構関係強化   | 国際コミッショナー      | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-11     | 世界に通用する人材確保  | 国際             | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-12     | CJK事務局長会議  | 事務局            | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-13     | 対外義捐金  | 国際             | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-14     | JOTA/JOTI  | プログラム          | ◎               | ○ | ○ | ○ |
|                           | 41-15     | 世界スカウト財団等協力  | 社会連携・広報        | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-16     | 国際登録料支出  | 事務局            | ◎               |   |   |   |
|                           | 41-17     | 翻訳資料作成   | 国際、コミッショナー、事務局 | ◎               |   |   |   |
| 41-18                     | 25WSJ派遣準備 | 25WSJ派遣実行委員会   | ◎              | ○               | ○ | ○ |   |
| <b>収益事業</b>               |           |  |                |                 |   |   |   |
| 収<br>益                    | 61-01     | 不動産賃貸事業  | 事務局            | ◎               |   |   |   |
|                           | 61-02     | 事務代行業業   | 事務局            | ◎               |   |   |   |
| <b>その他事業</b>              |           |  |                |                 |   |   |   |
| 他                         | 62-01     | 登録事業費<br>新登録システム設計・開発・構築を含む  | 事務局・DX         | ◎               |   |   |   |
|                           | 62-02     | 賠償責任保険   | 事務局            | ◎               |   |   |   |
| <b>管理事業</b>               |           |  |                |                 |   |   |   |
| 管<br>理                    | 81-01     | 理事会・評議員会   | 理事会・評議員会       | ◎               |   |   |   |
|                           | 81-02     | その他管理事業<br>給料、法定福利、厚生、退職給付、光熱水、備品器具、消耗品、通信運搬、渉外、交通、車輛等               | 事務局            | ◎               |   |   |   |

## 【公1：ボーイスカウト運動の教育計画の策定及び運営】

### 11-01：スカウト教育推進会議

スカウト教育推進会議の開催

〔第1回〕

日 時：5月16日（日）13：00～15：15

場 所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他13人

内 容：1. 各委員会からの報告および提案事項について

2. 令和3年度全国大会について

3. 全国県連盟コミッショナー会議について

4. 富士特別野営2021について

5. アジア太平洋地域スカウト財団30周年記念ロゴコンテストについて

〔第2回〕

日 時：9月5日（日）13：00～16：30

場 所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他16人

- 内容：1. 「部門の見直し」について  
2. プログラム委員会  
3. 指導者養成委員会  
4. 「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会  
5. 団支援・組織拡充委員会  
6. 社会連携・広報委員会  
7. RCJ運営委員会  
8. 全国県連盟コミッショナー会議について  
9. 第42回世界スカウト会議について  
10. 全団調査2021

#### 〔第3回〕

日時：11月28日（日）13:00～16:00

場所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他15人

- 内容：1. 教育規程の改正について  
2. RCJ報告  
3. 各常設委員会報告

#### 〔第4回〕

日時：2021年2月13日（日）13:00～15:30

場所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他8人

- 内容：1. 各常設委員会の今年度の主な取り組みについて  
2. RCJ報告

## 11-02：各種委員会

### (1) 常設委員会

#### ① 団支援・組織拡充委員会

10回の委員会を開催（対面1回、ハイブリッド1回、オンライン8回）し、担当事業等について協議を行った（各事業については当該欄参照）。

#### ② プログラム委員会

10回の委員会を開催（対面1回、オンライン9回）し、各施策や担当事業等について協議を行った（各施策・事業については当該欄参照）。

#### ③ 指導者養成委員会

予定された4回の委員会のうち1回は対面で、3回をオンラインで開催した。加えて、3回オンラインで、1回は高萩スカウトフィールドにて打合会を開催し、各施策を検討した。

#### ④ 国際委員会

予定された4回の委員会のうち1回はスカウト会館で、3回をオンラインで開催した。加えて、毎月オンラインで定例打合会を開催し、各プロジェクトを推進した。

#### ⑤ 社会連携・広報委員会

19回の定例会議を開催し、担当業務について検討、展開した。

#### ⑥ 「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会

全てオンラインによる委員会を8回開催し、担当業務について検討、展開した。

実施内容の詳細は、Ⅲ. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策「質の高い活動のための方策（セーフ・フロム・ハーム）を参照。

#### ⑦ 財務委員会

4回の委員会を開催し予算案、決算案を作成し、理事会に提案した。

#### ⑧ 信仰奨励委員会

4回の委員会を開催（オンライン2回、ハイブリット2回）し、次の検討と対応を行なった。

- ・委員が分担してスカウティング誌に信仰奨励を図る記事を執筆、掲載した。2021年7月号からは、

コラムの他に「スカウティングと信仰奨励」についての記事を執筆した。

- ・「宗教関係者の会」の総会を、毎年5月の全国大会時に開催していたが、今年度は9月2日にオンラインで開催した。また、開催の案内とともに会員のアンケート調査を実施し、宗教関係者の会の活動について意見交換を行なった。
- ・前年度から引き続き、授与基準のない教宗派でも宗教章がとれる仕組み、スカウト活動での「信仰奨励」の具体的な活動例の提示、ビーバー・カブスカウトへの信仰奨励、指導者のための宗教章について検討した。

## (2) 特別委員会

### ①ジェンダー共同参画特別委員会

全てオンラインで3回の委員会を開催し、全国大会テーマ集会の開催、10月開催理事会へ「改革提言〈最終報告書〉」を提出、ジェンダー関連プログラムや女性アンバサダーの検討等を行った。

### ②日本連盟資産等管理特別委員会

日本連盟保有資産を有効活用するとともに、必要性が低い資産の対応を検討するため、第1回理事会において、これまでの高萩スカウトフィールド特別委員会の機能を統合した「日本連盟資産管理等特別委員会」が設置され、以下の5回の委員会を開催し、検討を行った。

#### <開催状況>

- 第1回 7月 3日 (土) 高萩スカウトフィールドおよびオンライン
- 第2回 7月23日 (金) オンライン
- 第3回 9月17日 (金) オンライン
- 第4回 11月12日 (金) オンライン
- 第5回 12月16日 (水) オンライン

#### <検討内容>

- ・現状の保有不動産資産、保有管理状況の確認
- ・高萩スカウトフィールドにおける「しいたけ原木林再生事業」への協力
- ・高萩スカウトフィールド活用実行委員会との連携
- ・都道府県連盟の資産（野営場等の）状況調査
- ・高萩市との防災協定締結とヘリポート用地の提供
- ・資産売却及び活用

#### <高萩市との防災協定締結>

機関決定を経て、高萩市とボーイスカウト日本連盟とによる、大規模災害が発生した場合において「大和の森高萩スカウトフィールド」を「避難所」として、キャンプ用品を含む備品を提供する協定を11月20日に締結した。

今後の課題として、救助・救護体制のためのヘリコプター発着場の提供を念頭に、離発着場を高萩スカウトフィールドアリーナ広場及び第5区域の採砂場の跡地を予定し、令和4年度の提供の協定締結を目指すこととした。

### ③スカウトソング特別委員会

全てオンラインで9回の委員会を開催し、ライブ配信型の研修、ソングフェロー集会、スカウティング誌への記事掲載、スカウト歌集の編纂、創立100周年の記念の歌の制作を行った。スカウトソング研修会、スカウトソングワークショップの詳細は当該欄を参照。

### ④SDGs 協働事業特別委員会

全てオンラインによる17回の特別委員会を開催し、ボーイスカウトが地域社会と取り組む環境保全活動について協議した。社会課題であるプラスチックを正しく活用するための学習方法、無理なく楽しく続けることができる環境美化活動の方法、プラスチックごみを再利用したアップサイクルの実践について検討した。

事業名：プラごみマスターズ大作戦 事業目的：プラスチックごみが放棄されている社会課題に対して、全国各地の子ども達（スカウト）が自ら行動し、全国規模で放棄されるプラスチック「はぐれプラごみ」の調査・回収とプラスチックの資源循環を体験することを目的に実施します。事業内容：ボーイスカウト日本連盟創立100周年事業として、毎年9月に実施する、全国一斉環境美化運動「スカウトの日」も一つの活動の機会としつつ、スカウトが主体とな

って取り組む活動として3つのアクションに取り組みます。

- ①世界課題であるプラスチックごみに関する学習コンテンツの活用
- ②全国各地のプラスチックごみの回収とICTツールを活用したデータ集計
- ③日常で利用するペットボトルキャップの回収と回収物の再生利用

事業助成：本事業は、セブン-イレブン・ジャパンのレジ袋収益金を財源とした地域社会の環境保全活動として活用する取り組みとしてボーイスカウト日本連盟が取り組んでいます。活動資材の作製・配布は、セブン-イレブン記念財団の助成金により行っております。

### 11-03：全国事務局長会議

下記の通り開催し、全国の事務局長等と日本連盟の取り組みの情報共有を図った。

日 時：11月14日（日）10：00～16：00

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：37県連盟より事務局長（代理含む）37人、日本連盟役員4人

内 容：1. 日本連盟報告

2. 日本連盟コミッショナーの取り組みについて

3. 事務局からの連絡

4. まとめ（質疑応答、情報交等）

### 11-04：日本連盟コミッショナー会議

日本連盟コミッショナー調整会議

〔第1回〕

日 時：4月17日（土）13：30～16：10

場 所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他7人

内 容：1. 今年度事業計画について

2. 全国県連盟コミッショナー会議の運営について

3. スカウト用品経営会議から

4. 全団調査2020について

5. スカウト教育推進会議（第1回）の内容について

6. 報告事項

〔第2回〕

日 時：5月15日（土）14：00～16：00

場 所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他6人

内 容：1. 今年度事業計画について

2. 全国県連盟コミッショナー会議（第1回）の内容について

3. 全団調査2020について

4. スカウト教育推進会議（第1回）の内容について

〔第3回〕

日 時：6月28日（月）19：00～21：00

場 所：オンライン会議

出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他7人

内 容：1. コミッショナー通達について

2. 8月1日臨時全国県連盟コミッショナー会議について

3. 全国県連盟コミッショナー会議（第2回）の内容について

4. その他・今後の課題について

〔第4回〕

日 時：7月31日（土）14：00～17：00

場 所：オンライン会議

- 出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他7人  
内 容：1. 8月1日臨時全国県連盟コミッショナー会議について  
2. コミッショナートレーニングの内容について  
3. 県連盟内コミッショナーの任務と業務について  
4. キャンプスタンダードの見直しについて  
5. その他・今後の課題について

[第5回]

- 日 時：9月4日（土）14：00～17：00  
場 所：オンライン会議  
出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他7人  
内 容：1. コロナ禍における活動活性化に向けて  
2. 部門の見直しについて  
3. 第2回全国県連盟コミッショナー会議の開催について  
4. コミッショナー任務別研修の準備について  
5. 全団調査2021の内容について  
6. 第2回スカウト教育推進会議の内容  
7. その他報告等

[第6回]

- 日 時：10月3日（土）14：00～17：00  
場 所：日本連盟スカウト会館  
出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他7人  
内 容：1. 「部門の見直し」今後のスケジュールについて  
2. 第2回全国県連盟コミッショナー会議の開催について  
3. 全団調査2021の内容について  
4. その他報告等

[第7回]

- 日 時：11月27日（土）14：00～17：00  
場 所：日本連盟スカウト会館  
出席者：福嶋正己日本連盟コミッショナー、他6人  
内 容：1. 日本連盟2022年度の組織と体制について  
2. 2021年度コミッショナー関係事業について  
3. スカウト教育推進会議（第3回）協議事項について  
4. 指導者書籍の制作について  
5. 全国ローバースカウト会議の運営について  
6. その他報告等

#### 11-05：ブロック県連盟コミッショナー会議

ブロック県連盟コミッショナー会議は、各ブロック会議の開催に合わせて、または特定の議題があるときにブロック幹事県連盟の招集により開催。議題により日本連盟コミッショナーグループが参席して意見を述べている。

#### 11-06：県連盟コミッショナー会議

##### 全国県連盟コミッショナー会議の開催

[第1回]

- 日 時：5月29日（日）16：00～18：00  
場 所：オンライン会議  
出席者：県連盟コミッショナー46人（代理5人含む）  
福嶋日本連盟コミッショナー 他日本連盟役員9人  
主な内容：1. コミッショナー活動方針

2. 各委員会報告
3. 全団調査の活用
4. 人生の岐路に立つ君へ事業報告
5. ワクワク自然体験あそび事業報告
6. ブロック別討議

〔臨時〕

日 時：8月1日（日）13：00～17：00

場 所：オンライン会議

出席者：県連盟コミッショナー46人（代理6人を含む）

福嶋日本連盟コミッショナー 他日本連盟役員13人

主な内容：1. 日本連盟コミッショナーの話

2. 各委員会報告（団支援・組織拡充委員会、プログラム委員会、指導者養成委員会、社会連携・広報委員会）
3. 18NSJの準備（意見交換）
4. 部門の見直し（意見交換）

〔第2回〕

日 時：10月15日（日）15：30～17日（日）15：00

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：県連盟コミッショナー44人（代理4人を含む）

福嶋日本連盟コミッショナー 他日本連盟役員16人

主な内容：1. コミッショナーの話（コロナ禍における活動の展開、部門の見直し）

2. 各常設委員会報告
3. 100周年記念事業
4. 25WSJ派遣準備
5. 18NSJ準備
6. 分科会Ⅰ（18NSJ準備）
7. 分科会Ⅱ（スカウト教育に関する課題）
8. 全団調査2021
9. 表彰

〔第3回〕

日 時：2022年1月15日（日）13：30～17：30

および16日（日）9：30～12：00

場 所：オンライン会議

出席者：県連盟コミッショナー46人（代理2人を含む）

福嶋日本連盟コミッショナー他日本連盟役員15人

主な内容：1. 日本連盟コミッショナーの話

2. 2022年度日本連盟重点施策
3. 2022年度日本連盟新体制
4. 日本連盟創立100周年記念事業
5. 常設委員会報告
6. SDGs協働事業
7. 表彰
8. 18NSJの準備

## 11-07：県連盟代表者会議

下記の通り2回開催した。

### 〔第1回〕

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、5月29日（土）に静岡県熱海市（全国大会）での開催を中止しオンライン（一部スカウト会館）で開催した。

日 時：5月29日（土）13：30～15：35

場 所：オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

出席者：46都道府県連盟理事長・事務局長または代理88人、  
日本連盟 水野理事長、奥島総長、理事10人

内 容：1. 2020（令和2）年度事業報告および決算について  
2. 2021（令和3）年度事業計画および予算について  
3. 2021年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について  
4. 100周年記念事業について  
5. 第18回日本スカウトジャンボリー開催形態について  
6. 今後の全国大会開催地について  
7. 財政再建及び組織改革に関する基本方針への取り組み状況について  
8. 新登録制度検討特別委員会および団支援・組織拡充委員会報告について  
9. 団診断について  
10. その他・質疑

### 〔第2回〕

日 時：1月29日（土）13：00～16：00

場 所：オンライン開催

出席者：45県連盟から理事長45人（代理者含む）  
水野日本連盟理事長、ほか役員6人

内 容：1. 新型コロナウイルス感染拡大への対応について  
2. 2022年度事業計画案について  
3. 2022年度予算案について  
4. 2022年度全国大会および県連盟代表者会議について  
5. 日本連盟新体制について  
6. 100周年記念事業について（SDGS協働事業含む）  
7. 第18回日本スカウトジャンボリーについて  
8. 登録制度の抜本的な改革と加盟登録システムについて  
9. その他  
10. 意見・質問

## 11-08：賀詞交歓会

第2回県連盟代表者会議同日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止とした

## 11-09：役員国内旅費

役員の業務による旅費の支給を役員旅費規程に基づき適正に処理した。

## 11-10：組織拡充モデル県連盟

2016（平成28）年度から高知県連盟を、2017（平成29）年度からは秋田県連盟を、2018（平成30）年度からは岡山連盟・大分県連盟を、昨年度から福島連盟・静岡県連盟・京都連盟・和歌山連盟を加え、組織拡充を推進しているが、新型コロナウイルス感染症の影響があり目立った成果は得られなかった。

- ・岡山連盟では、2022年3月6日に総社第3団版母親世代タスクチーム会議を開催した。
- ・高知県連盟では、2022年夏頃を目途に新団（高知第14団）発団に向けて最終調整中。
- ・大分県連盟では、社会連携・広報委員会と連携して、県連盟出身の著名人が出演したボーイスカウト説明会用動画を作成した。

## 11-11：組織拡充担当者による会合

次のとおり実施した。

- ・今年度から、年3回（第1回＝7月10日と第3回＝3月12日はオンライン型、第2回＝11月7日はハイブリット型）、全国組織拡充担当委員長会合を開催した。
- ・第1回は42県連盟74人、第2回は39県連盟65人、第3回は39県連盟41人の県連盟組織拡充担当委員長またはその代理の参加を得た。
- ・内容：第1回＝①団支援・組織拡充委員会事業についての説明、②スカウト運動戦略セミナーコンテンツの要約紹介、③グループディスカッション「今年度の県連盟組織拡充事業計画の共有と情報交換」、第2回＝①水野理事長による特別基調講演「組織拡充に力を尽くそう」、②事例発表：コロナ禍でも出来る！オンライン説明会の開催～愛媛県連盟西条地区の取り組みから～、大学ローバーが熱い！～スカウト自身が語る和歌山大学ローバー設立の1年後の姿～、グループディスカッション「withコロナの中での新たな組織拡充の展開アイデア～令和4年度に向けて～」、第3回＝①次年度の団支援・組織拡充委員会事業説明、②次年度以降の委員長会合でのグループ編成について、③グループディスカッション「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」の実施団を増やすためには何が必要か？
- ・次年度の委員長会合は、11月5日・6日にスカウト会館での開催の他に、オンラインで2回開催することとし、悩みを共有、具体的な施策を実行するために47県連盟を今後検討する6グループ程度に分け、そのグループごとに開催することを検討する。また、当委員会と県連盟の委員長、県連盟の委員長同士の顔の見える関係を構築する場としても位置づけたい。

## 11-12：募金事業

企業や団体等に寄付やその他企業連携をお願いする際に使用する営業用のチラシを社会連携・広報委員会において作成した。

## 11-13：ともに進もう助成プログラム

新型コロナウイルスの猛威による全国的な経済打撃の影響を考慮し、昨年度に続けて早い時期の募集強化、早期支給に務めた。この結果、前年度は162人だった支援対象者が、今年度は226人への助成へとさらなる広がりを見せた。社会要請の強まりに呼応した取り組みとなった。2022年度はさらに年度当初からの支給を実現できるよう、年度末を待たず募集を開始し、多くの申請を受けている。

また、この助成の原資について、「もったいない寄付」の普及促進に務め、予算を上回る102万円ほどの支援を得ることができたほか、目的指定寄付の周知に務め、昨年度の倍近い400万円を超える寄付を集めることができた。しかし、急増する助成ニーズには追いつかず、さらなる周知が必要である。

### 11-14-01：コラボレーションバッジ

前述の通り1章追加で6章体制で展開し、全国6,000人以上のスカウトの参加を得ることができた。

### 11-14-02：全国防災キャラバン

前述の通り、新型コロナウイルス流行下であっても20会場ほどで開催したほか、パネルのみの展示など機に応じた対応を行い、活動停止とならぬよう務めた。

### 11-14-03：難民支援プロジェクト

過去最大の総計19,000着を回収することができた。地域の社会貢献イベントとしての開催事例を周知するなどして、この事業を団・地区における社会連携施策としていかしていく必要がある。

### 11-14-04：スカウトと社会をつなぐ場所

昨年度に引き続き、すべてオンライン開催で行った。また、30～40代の現場の第一線で活躍するスカウトOBの話を聞く場として「ようこそ、先輩」というセカンドラインを設け、従来のスタイルとの2路線体制で運営を行った。全国から参加者が集まるようになり、計4回の開催で160人近くのスカウトが参加しているが、開催情報の伝達に課題があり、より多くのスカウトが参加できるよう情報流通の強化が急務である。

## 11-14-05：企業セミナー

残念ながら引き合いがなかったが、引き続き、備えておく必要がある。

## 11-15：100周年準備

100周年気炎事業実行委員会と小委員会を編成して、2022年（令和4年）4月1日から2023年（令和5年）3月31日までに実施する下記事業の準備を進めた。

### ○記念事業

#### 1. 記念誌編纂事業

次の2種類の発行を行う。

##### ①『日本ボーイスカウト運動史Ⅲ』

既刊『運動史50年史』、『運動史Ⅱ80年史』に続く『日本ボーイスカウト運動史Ⅲ』として、81周年年度以降100周年年度までの運動史を写真入りで編纂。

##### ②『日本ボーイスカウト運動100年史』（上巻・下巻）

運動の創始から日本における100年のボーイスカウト運動史（上・下巻の通史）上巻：創始～50周年年度、下巻：51周年年度～100周年年度。

#### 2. 特別募金事業

次の2種類の事業を念頭に、以下の募金を行う。

##### ①未来の子どもたち基金

##### ②デジタルミュージアム設立

募金目標額 1億円

募金の種類および1口当たりの寄付金額

\*個人向け 5,000円、10,000円、50,000円、100,000円

\*法人向け 50,000円、100,000円、500,000円、1,000,000円

募集期間 2021年（令和3年）12月～2023年（令和5年）3月末日

#### 3. 祝賀事業

次の2種類の事業を行う。

##### ①記念式典

・開催日：令和4(2022)年11月26日(土)

・場所：明治神宮会館（東京都渋谷区代々木神園町1-1/明治神宮内）

##### ②レセプション

・開催日：式典と同日開催

・場所：明治記念館（東京都港区元赤坂2丁目2-23）

#### 4. 全国キャラバン・県連盟記念事業

次の2種類の事業を行う。

##### ①全国防災キャラバン

##### ②全国展開プロジェクトーSDGsプロジェクト

#### 5. 収蔵品のデジタル化公開事業

次の事業を行う。

○デジタルミュージアムの公開の主旨

○デジタルミュージアムの構想

#### 6. 100周年記念特別表彰事業

以下のような表彰について実施を検討した。

##### ①「100周年を記念する表彰」

##### ②「100周年を機に創設する表彰」

##### ③その他

#### 7. 100周年記念ソングの制作事業

#### 8. 特殊切手の発行事業

## 11-16：人生の岐路に立つ君へ

「加盟員拡大と中途退団抑止V-7参照

### 11-17：富士章授与章・記章・記念品等

富士スカウトに進級したスカウトを認証する証書、記章、記念品を準備し、受章を讃えた。

### 11-19：英国エディンバラ公国際アワード（プログラム）

2018（平成30）年度より、日本事務局の閉鎖に伴い、すでに参加している人への対応など限定的に活動を実施したが、修了者はいなかった。また、新たな契約のもと活動が再開できるようにアワード事務局と契約更新を調整している。

### 11-20：宗教章授与証

本年度は26県連盟265人が宗教章を取得した（前年度取得者25県連盟203人）。

|       | 仏教   | キリスト教 | 神道  | 金光教 | 世界救世教 | 天理教 | 計    |
|-------|------|-------|-----|-----|-------|-----|------|
| 令和3年度 | 160人 | 38人   | 56人 | 2人  | 3人    | 3人  | 265人 |
| 令和2年度 | 157人 | 23人   | 21人 | 1人  | 0人    | 1人  | 203人 |

### 11-21：宗教代表者会議

各教宗派の代表者を推薦いただき（15教宗派16人）、宗教関係代表者会議（対面）の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、延期となっている。

### 11-22 DXサミット

デジタルツール配布プログラムのサービスの一環としまして、日本連盟のデジタルトランスフォーメーションの取り組みの紹介、利用者同士の情報交換、種々デジタルツールの活用方法等の紹介の場としてWEBミーティングの形式で昨年度に引き続き2回目の開催を予定していたが、諸般の事情により次年度に延期とした。

### 12-00：スカウトの日

9月21日（第3月曜日敬老の日）に一般財団法人セブンイレブン記念財団の協賛、文部科学省・環境省・厚生労働省の後援をいただき、テーマ“地球大好き！I Love the Earth.”のもと、「日日の善行」の一環として全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が、奉仕活動としてさまざまな社会貢献活動を展開した。

今年度は、地域住民の方と取り組み、ボーイスカウト活動を広く周知するため、申し込みのあった団・隊に対して、SDGsのカラーとスカウトに関係する動物をあしらったのぼり旗を配付した。

参加報告集計結果は、参加団475団、参加者10,870人であった（前年度実績499団参加者13,589人）。事前には、47都道府県から約836団からの申し込みがあったが、9月には21都道府県で緊急事態措置が行われ、全国的にも9月中の実施が難しくなり、活動が延期や中止となった。

この取り組みを広く一般に周知するため、日本最大級の環境展示会「エコプロ2021」にブース出展し発信した。また、環境保全・環境美化活動以外にも、地域の奉仕活動が展開されるよう検討している。

### 13-00：ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび

前年度の文部科学省委託事業での展開を基盤として、当年度は昨年度に収集したノウハウおよび参加申込システムの提供を行った。32県連盟328会場で6,336人の一般児童の参加申込みがあった。

## 14：教育に必要な施設の提供

スカウト会館、那須野営場、高萩スカウトフィールドを管理するとともに環境対策を行った。

### 15-01：18NSJ開催準備

全国から東京の会場に集まる従前の様式で検討してきたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えないため、新たな様式での大会開催として、コア期間を設けて全国にサテライト会場を設けたり、夏休み期間を「ジャンボリーサマー2022」と位置づけるなどして分散開催を提案し、県連盟コミッショナーを通じて、全国各地での実施を依頼した。

サテライト会場については、3ブロック5会場に10を超える県連盟が参加し、26県連盟での県大会が開催されるようになった。大会公式ウェブサイトや専用のスマートフォン用アプリを公開し、大会開催に

向けた機運を高めた。

#### 15-02 : 13NA開催準備

第13回日本アグーナリーは、新型コロナウイルス感染拡大の状況により2024年8月に開催を延期した。開催の準備のため、実行委員会を編成し、第1回会議を開催し、3年後の大会開催に向け準備のスタートを切った。

#### 15-03 : 富士特別野営

7ページの「1. 各種行事の開催」を参照

#### 15-04 : RCJX (テン)

6ページの「1. 各種行事の開催」を参照

#### 15-05 : 富士スカウト代表表敬

7ページの「1. 各種行事の開催」を参照

#### 15-06 : スカウトソング研修会

コロナ禍の長期化により、従来の開催要望県連盟を募集する出前型研修会は取りやめ、新たな試みとして、日本連盟主催でライブ配信型の研修会を2月20日に予定し、募集と開催に向けての諸準備を行ったが、新型コロナウイルスのオミクロン株による急速な感染拡大により、開催の中止を決定した（スタッフとなる委員がライブ会場（東京）に集まり難い状況であり、ライブスタジオで歌唱・指導することが3つの密（密閉・密集・密接）を避けられないと判断）。開催はできなかったが、新たな研修形態を検討し、ライブ配信型研修として企画、準備できたことは成果であった。

・2021（令和3）年度スカウトソング研修会（中止）

期 間：2022年2月20日（日）

場 所：オンライン（ライブ配信）

なお、コロナ禍により、歌えない状況が続き、スカウトの歌声がますます聞こえなくなっている中、スカウティング誌に以下の記事を掲載し、オンラインや手作り楽器を使って楽しく活動することができることを紹介した。

・2021年7月号：「スカウトソングを歌おう」-オンラインでのソングの活用事例-

・2022年3月号：「手作り楽器を使ってスカウトソングを楽しく歌おう」

#### 15-07 : スカウトソングワークショップ

今年度は、スカウトソング研修会に注力するため開催を見合わせた。開催には至らなかったが、新たな研修形態（グループワークはやめて、事後課題（個人作業）で企画プロセスを体験する形態）でのワークショップを企画することができた。

スカウトソングワークショップ修了者（14県連盟20人）とのWEB集会を計画し、その準備として、アンケートを実施し、3月6日（日）にソングフェロー集会を開催した（出席：5県連盟6人）。第1部：ミニ研修（①『動作を知りたいソング』②『スカウトソングランキング』よりベスト3の曲）、第2部：コロナ禍でのソング研修の実例（事例紹介と体験）により、研修・交流の場を設けることができた。

#### 16-01 : 共済事業

「共済事業」の運用については、共済事業報告書が別途発行されるが、概要は次のとおりである。

- ・2014（平成26）年4月より「PTA・青少年教育団体共済法」を根拠法とする認可共済『そなえよつねに共済』を開始し8年目を迎えた。
- ・2022（令和4）年3月末現在、88,953人（内、非加盟員6,282人を含む）の申込を受付して運用した。例年同様、加入総人数の92%が4月に加入している。前年度（昨年度実施した文部科学省委託事業「ボーイスカウトと遊ぼう！ワクワク自然体験あそび」の一般児童参加者の加入者数は除く、以下同様）と比較すると加盟員の減少傾向と相俟って、2,586人（2,8%）の減員となった。
- ・なお、非加盟員の加入者数は毎年増加傾向にある一方、加盟員含めた全体の加入者数はここ数年間対前

年度5%前後の減少傾向であったが、減少傾向に少し歯止めがかかった年となった。

・事故状況については、新型コロナの感染防止策をとりながらの活動が再開されたことにより、受理件数は181件と昨年度の93件に比べて約200%と大幅な増加となったが、コロナ禍前の約400件と比べるとまだ減少傾向にあり、支払額では約68%減となっている。

・共済金の給付は「安全普及啓発活動」に対して次のとおり円滑に行われている。

①「安全促進フォーラム」の開催、②「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」の開催、③スカウティング誌掲載記事電子化、④セーフ・フロム・ハーム E ラーニングシステム改修については、11ページの「2. 質の高い活動のための方策（セーフ・フロム・ハーム）を参照。

なお、ガイドラインの改訂版作成と配付については、他の事業が優先し、また、他へ波及する部分があり年度内にまとめきれず、次年度への申し送りとなった。

## 【公2：ボーイスカウト運動の普及及び広報】

### 21-01：普及資料の作成

経費削減に努めつつも、各県連盟からの要望に応じて三つ折りリーフレットの改善を行い、各団において一部改編可能な書式に整えてPRツールダウンロードセンターに掲載し、利便性を高めた。

### 21-02：名誉会議

第1回会議（9月11日）では2022（令和4）年度表彰の審査基準を協議し、第2回会議（2022年3月19日）において審査を行った。また、100周年記念特別表彰の検討のため、臨時会議を4回開催した。

表彰者については、「2022（令和4）年度）表彰者名簿」参照

### 21-03：表彰事業費

2020（令和2）年度に審査した2021（令和3）年度表彰について、表彰者名簿・表彰状の作成、記章類の購入を行った。また、追加表彰についても同様の対応をした。

### 21-04：組織拡充顕彰

・2021年度全国大会はオンライン開催となり、その中の表彰式において、2020年度の顕彰を実施した。

【県連盟対象】①加盟員数の増加＝5県連盟、②BVS隊設置＝5県連盟、③継続登録者率＝該当なし、④団数の増加＝該当なし

【団対象】Sランク＝7県連盟9こ団、Aランク＝23県連盟73こ団

・2021年度については、11月26日付で全県連盟宛に文書発信し、「2022（令和4）年度全国大会」表彰式において顕彰する。

### 21-05：維持会員年功章

2021（令和3）年度の維持会費実績は次のとおりであった。

維持会費の協力依頼 2021年度維持会費収入予算 37,000,000円】

入金額48,747,121円（前年度額 49,235,000円）

| 維持会員        | 総計 | 4,057 個人・法人 |
|-------------|----|-------------|
| (内訳) 通常維持会員 |    | 3,814 個人・法人 |
| 特別維持会員      |    | 78 個人       |
| 法人維持会員      |    | 119 法人      |
| 旧特別維持会員     |    | 46 個人・法人    |

維持会費入金額

|           |    |              |                           |
|-----------|----|--------------|---------------------------|
| 維持会員      | 総計 | 4,057 個人・法人  |                           |
| 当該年度実績額   |    | 56,370,424 円 | (予算額の 98.0%) (対前年 98.0%)  |
| 当該年度予算額   |    | 57,500,000 円 |                           |
| 前年度実績額    |    | 57,521,400 円 |                           |
| 当該年度実績額内訳 |    |              |                           |
| 県連盟取扱額    |    | 48,747,121 円 | (予算額の 131.7%) (対前年 99.0%) |
| 県連盟協力依頼額  |    | 37,000,000 円 |                           |
| 前年度実績額    |    | 49,235,000 円 |                           |
| 日本連盟取扱額   |    | 7,623,303 円  | (予算額の 37.2%) (対前年 92.0%)  |
| 日本連盟予算額   |    | 20,500,000 円 |                           |
| 前年度実績額    |    | 8,286,400 円  |                           |

- ・目標達成県連盟は37県連盟であった。
- ・マンスリーサポート維持会員の推進については、月額1,000円(年額計12,000円)からのカード自動引き落としによるマンスリーサポート維持会員の制度の拡大に努めている。  
マンスリー維持会員は合計195人となっている。(前年度174人)

スカウトライオンズ/スカウトロータリアンの入会促進等については、今年度全国大会での総会のほか各会での会合等一連が開催できず、残念ながら停滞した。

#### 21-06 : 写真コンテスト

例年同様11月～2月末まで募集し、少年少女の部177点、青年成人の部131点、計308点の応募を得て、それぞれの部門で最優秀1点、優秀2点、入選8点を、日本写真家協会元会長の田沼武能審査員長に選考いただき表彰した。各部門の最優秀者にはウェアラブルカメラを贈呈した。この他、近年のトレンドに合わせて紙焼きを行わない写真でも手軽に参加できるように「オンライン投稿の部」を設けて、200点近い応募を得て、こちらはオンライン上での投票で受賞作を決定した。  
また、2017(平成29)年度より設けたPRムービーコンテストを今年度も実施した。応募32作品から最優秀1作品、優秀1作品、入賞4作品を選考し、賞品を贈呈した。また今年度はエイワのマシュマロ、グリコ、ゴーゴーカレー、ビクトリノックスからそれぞれの特色ある商品協賛を得て、その特色に関連した作品に対し各企業賞も贈呈された。

#### 21-07 : スカウトライブラリー運営事業

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されている期間等は臨時休館とし、それ以外は、3密を避けるために事前予約制とし、入場制限を行いながら運営し、ご利用いただいた。

#### 21-08 : 中途退団抑止

重点施策、V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策 の項目で報告。

#### 21-09 : PR 戦略展開

A PRへの活動報告動画の制作、「こども霞が関見学デー」「WWF ジャパン脱炭素キャンペーン」「ガールスカウトの各種事業」など国内外の関係諸団体への広報や事業連携などを推し進めた。

#### 21-10 : その他広報

年度中に新たに発生したPR案件について各種取り組んだ。中でも、映画「東西ジャニーズ Jr. ぼくらのサバイバルウォーズ」のタイアップについては、文部科学省・国立青少年教育振興機構などとの連携を軸に多面的に取り組みを行った。

#### 21-11 : キッズフェスタ

毎年春と秋の二度、国立青少年教育振興機構の依頼により、自然体験活動の実践の場として、火起こしプ

プログラムを実施しているが、感染症拡大に伴い、主催者の判断により中止となった。例年、プログラム実施については東京連盟に当日の運営支援を依頼しており、会場の最寄りである代々木・渋谷周辺の団を中心に成人指導者およびローバースカウトの協力により実施している。

## 22-01：機関誌「SCOUTING」

当初の予定通り計6回の発行を行った。7月号における記事不体裁について関係各位に多大なるご迷惑をおかけしたことを改めてお詫び申し上げるとともに、それを機に記事執筆と内容確認・編集体制を全面的に見直し、体制強化に務めた。

また、広告出稿機会向上などを目的に、広告代理店に媒体としての登録を行った。これにより、各種クライアント等からの引き合いが発生するなど媒体価値を向上させられたが、ボーイスカウトのイメージと、実際の機関誌の購読者層（指導者）とのギャップから、出稿成立には至っていない。

紙媒体としての発行を視野に入れつつも、媒体としての在り方について検討すべき時期にきていると考えている。

## 22-02：出版物刊行

本年度は次の書籍の発行を行なった。

- 〈新刊〉 令和3年4月15日『安全ハンドブック』初版
- 令和3年4月28日『日本連盟規程集』令和3年版
- 〈増刷〉 令和3年4月20日『カブスカウト歌集』52刷
- 令和3年5月25日『安全ハンドブック』2刷
- 令和3年11月1日『スカウトハンドブック・アドバンス』3刷
- 令和4年2月15日『ロープむすび』43刷
- 令和4年2月17日『ビーバーノート』36刷
- 令和4年2月17日『りすの道』7刷
- 令和4年2月17日『カブブック うさぎ』7刷
- 令和4年2月17日『カブブック しか』7刷
- 令和4年2月17日『カブブック くま』7刷
- 令和4年2月17日『カブブック チャレンジ章』7刷
- 令和4年2月17日『ビーバースカウト歌集』28刷
- 令和4年2月23日『ボーイスカウト隊リーダーハンドブック』3刷
- 令和4年3月18日『BVS隊リーダーハンドブック』3刷
- 令和4年3月18日『スカウトハンドブック・ベーシック』第2版4冊

## 23-00：電子媒体（インターネット）

日本連盟のホームページで、様々な情報提供を行った。また、セーフ・フロム・ハームの登録前研修をEラーニングで提供するなどコンテンツを充実させている。

## 【公3：指導者の養成】

### 31-01：全国大会の開催

Ⅱ. 重点事業への取り組み 1. 各種行事の開催 (1) 全国大会 参照

### 31-02：新指導者養成体制の充実

新訓練体系に基づく各種訓練を全国各地で実施した。

※新型コロナウイルス感染への対応を取った上で実施したが、多くのコースが中止となった。

#### ボーイスカウト講習会

- ・動画の活用やグループワークの活用など、改定した新しい内容で実施された。
- ・全国で162回開設し、ボーイスカウト運動の普及に努めた。

#### ウッドバッジ研修所「スカウトコース」(23コース)

- ・参加者の研修効果が上がるよう効果的な支援を行い、セッションの運営に関しては、コースの開設地域に応じた工夫がなされ、参加者の理解を深める努力が行われた。

#### ウッドバッジ研修所「課程別研修」(のべ77回)

- ・青少年の年代別の特性や各部門の隊運営や進歩制度の特徴、プログラムの立案について学ぶ内容となっている。
- ・課程別研修を履修することで「隊指導者基礎訓練課程」の修了となり、上級訓練へとモチベーションを維持し、さらに自己研鑽に励むことが期待される。

#### ウッドバッジ実修所(4コース)

- ・活発なプログラムを展開するために、隊指導者に活動的なプログラム体験の機会を増やすことをねらいの一つとして、隊指導者上級訓練を実施した。

#### 団委員研修所(3コース)

- ・団委員の実務を中心とした研修内容であることから、団の組織と運営の概要について理解し、団委員会、団会議の機能と連携や各隊活動への支援、団委員会の業務について理解する内容となっている。セッションの運営については、参加者の状況や地域差により所長の適切な対応が行われている。

#### 団委員実修所(1コース)

- ・団の組織および団委員(長)の任務について深く理解し、団委員(長)として正常かつ発展的に団を運営していくための実務を理解し、自団の問題解決や将来に向かっての施策を推進する能力を高める内容となっている。

#### ウッドクラフトコース(中止)

- ・今年度は県連盟での開設を3コース予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、全てのコースを中止とした。

全国の指導者の資質向上のため、隊・団への継続的な支援を行った。呼称を「インサービス・サポート」から「任務中の支援」と変更することで、理解の促進を図ることとした。同時に、任務中の支援を実行する団委員長やコミッショナー向けの手引きを作成した。コミッショナーや団委員長が「任務中の支援」を理解し指導者への直接的な支援を行えるように、新しいコミッショナー訓練で取り扱うこととする他、団委員研修所・実修所でも取り扱うようセッション内容を見直した。

### **31-03 : 県連盟開設指導者訓練補助**

ウッドバッジ研修所スカウトコース、団委員研修所、コミッショナーベーシックトレーニングを対象に、履修・修了者1人につき3,000円を請求に基づき開設県連盟に支払った。

- ・ウッドバッジ研修所スカウトコース：21コース、のべ972,000円
- ・団委員研修所：3コース、のべ120,000円
- ・コミッショナーベーシックトレーニング：2コース、のべ189,000円

### **31-04 : 県連盟指導者養成等補助**

上記開設補助金とは別に、各県連盟指導者養成等への取り組みに対して補助金を支出した。

### **31-05 : 指導者養成(日本連盟開設)**

新型コロナウイルスの感染拡大に配慮しながら、各種指導者訓練コースを開設した。

#### ウッドバッジ実修所、団委員実修所

ウッドバッジ実修所は、参加者が当該部門の隊長として体験を通してプログラムの重要性を理解し、ニーズと個人の進歩を考慮した効果的な展開ができることを目的として開設した。

団委員実修所は、参加者が自団の問題解決や将来に向かっての施策を推進する能力を高めることを目的として開設した。

#### リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に訓練の企画および実施をするための技能を修得することを目的として開設した。

なお、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、日程を変更して実施した。

(10月20日～10月24日 於・高萩スカウトフィールド 9県連盟13人の履修)

#### 副リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に導入訓練課程および基礎訓練課程を行う技能を修得することを目的として開設した。

なお、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、日程を変更して実施した。

(10月30日～11月3日 於・那須野営場 17県連盟30人の履修)

### 31-06 : トレーニングチーム

新型コロナウイルスの感染拡大により、各種定型訓練の開設を中止としたことにより、トレーナーの奉仕機会が減少したが、その機会を活用し、全トレーナーに対して自己研修への取り組みを依頼した。自己研修の取り組み結果から、今後の各種施策で活用できるものについては、積極的に取り入れることを検討する。また、トレーナー研究集会とトレーナー訓練については、次のとおり実施した。

#### 県連盟ディレクター研究集会

令和3年度に実施した各種指導者訓練についての評価・報告を行った。各県連盟では、中止となるコースが相次いだ。徐々にコロナ対策を実施した上で実施できるようになってきている。また、グループワークを通じてA I Sの理解を深めた。その他、全県連盟ディレクターと日本連盟ディレクターチームとで面談を実施し、各県連盟内の事情などを共有した。

#### トレーナー研究集会

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大対策として、昨年と同様に、日本連盟伝達事項については動画配信とし、研究の部分を令和4年2月6日から27日まで全国11会場でオンライン開催とした。研究テーマを「指導者訓練の手法について」と「トレーナー資質の向上につながる研修企画について」に設定し、研究のポイントを示して各地で研究を行った。また、トレーナー個人で取り組んでいる研究内容についての発表を行った。

#### 新任副リーダートレーナー研修会

トレーナーコースの開設日程を変更したことに伴い、令和4年7月に延期して開催する予定。

#### 日本連盟ディレクター会議

予定された4回の会議のうち2回は指導者養成委員会と合同で開催した。加えて、3回オンラインで2回対面で臨時会議を開催し、各種指導者養成事業の準備を進めた。

## 【公4 : 国際相互理解の促進及び国際協力】

### 41-01 : ナショナルジャンボリー等派遣

2021年度は中止

### 41-02 : 日韓スカウト交歓

2021年度中止 (2023年度に再開予定)

### 41-03 : オーストラリア留学生受入

2021年度は中止 (2022年度に開催予定)

### 41-04 : C J Kベンチャープロジェクト日本開催

2021年度は中止 (延期)

### 41-05 海外派遣選考

オンラインで開催

#### 41-06 役職員海外派遣

海外渡航が出来なかったためオンラインで参加

#### 41-07 APRサミット会議派遣

重点事業参照

#### 41-08 世界スカウト会議派遣

重点事業参照

#### 41-09 APRスカウト会議派遣

重点事業参照

#### 41-10 世界スカウト機構関係強化

今年度はAPRサミット会議、世界スカウト会議、APRスカウト会議がオンラインで開催され、それぞれに日本代表団が参加した。

#### 41-11 世界に通用する人材確保

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国際活動サービスチーム（SITA）の活動を通じた人材確保が十分に行えなかった。

#### 41-12 CJK事務局長会議

日本開催の予定であったが延期

#### 41-13 対外義捐金

国際救援金としてWOSMウクライナ人道支援に1000米ドルを支援

#### 41-14 : JOTA-JOTI

次のとおり実施された。

##### 【ジャンボリー・オン・ジ・インターネット 2021/ジャンボリー・オン・ジ・エア 2021】

開催日時：2021年10月15日（金）00:00～17日（日）24:00 72時間

日本連盟ウェブサイトの特設ページを設けて、事前申請と事後報告をお願いしたところ次のとおり申請・報告があった。

事前申込：26県連盟191件

事後報告：19県連盟93件

また、JOTA-JOTI 2021に合わせて、JOTI 事前体験会（Pre JOTI 2021）と、アマチュア無線を中心としたJOTA 体験会（JOTA-JOTI PLAZA 2021）を開催した。

##### 【JOTI 事前体験会：Pre JOTI 2021】

開催日時：2021年9月12日（日）10:00～11:30（団での参加）

13:00～14:30（個人での参加）

開催方法：Zoomを用いたオンラインでの開催

主催：国際委員会

参加申請：562人（13県連盟88の隊や団などのグループのほか、個人での参加）

運営支援：韓国、マレーシア、ドイツの海外グループのスカウトおよび指導者、国際活動サービスチーム（SITA）

##### 【JOTA 体験会：JOTA-JOTI PLAZA 2021】

開催日時：2021年10月16日（土）、17日（日）2日間 10:00～16:00（時間入れ替え制）

15日（金）は設営と訓練日 時間は会場毎に異なる。

開催場所：東京会場 スカウト会館（東京・杉並区）

愛知会場 廣徳寺（愛知・知多郡美浜町）

大阪会場 池田市民文化会館（大阪・池田市）

参加人数：東京会場160人（スカウト94人、指導者66人）3県連盟14こ団

愛知会場 24人（スカウト11人、指導者13人）1県連盟3こ団

大阪会場129人（スカウト77人、指導者52人）2県連盟8こ団

運営支援：日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ

日本アマチュア無線連盟（JARL）東京都支部・埼玉県支部

JARL 東海地方本部・愛知県支部、モリコロアマチュア無線クラブ

JARL 関西地方本部、池田市民アマチュア無線クラブ

アマチュア無線振興協会（JARO）、アイコム株式会社、アツデン株式会社

アマチュア無線の免許を持っていないスカウトでも機器に触れ交信することができるよう、体験局兼記念局コールサインの発給を受けて、スカウト加盟員の運用する局を含め、全国のアマチュア無線局と実際に交信を行った。今年度は、東京「8J1JOTA」愛知「8J2JOTA」大阪「8J3JOTA」の3つのコールサインにて運用を行なった。

昨年につづき、海外との交信も行なわれ、南極昭和基地（8J1RL）とも交信する機会も設けられ、世界とつながる手段としてアマチュア無線を体感した。

- ・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として、世界中のスカウトが、アマチュア無線交信やインターネット通信での情報交換により、互いを理解し知識と友情を深めた。
- ・国内の運用・参加について、19県連盟93件の報告があり、JOTA参加が44%、JOTI参加が41%、両方への参加が15%で、参加スカウト725人、参加指導者・支援者498人、見学者159人の計1,382人であった（前年度は85件、延べ1,317人）。
- ・昨年度から運用件数は増加し、地区や団でJOTIを中心に大々的に実施するところが増え、参加者・見学者ともに増加した。

#### 41-15：世界スカウト財団協力

例年同様、それぞれの財団会員等のネットワークからのPRを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。2021年度は世界スカウト財団に6人の新規加入者があった。これにより、世界スカウト財団B-Pフェローは257人、APRスカウト財団会員は187人となった。

#### 41-16 国際登録料支出

毎年度支出している

#### 41-17 翻訳資料作成

必要に応じて対応

#### 41-18 25WS J派遣準備

年度内に3回の派遣実行委員会を開催し、派遣員の公募を開始している

### 【管理事業】

#### 61-01：不動産賃貸事業

日本連盟所有の後楽園SAJビル（文京区本郷）を管理会社に賃貸管理を委託し、賃貸収入を得ている。

#### 61-02：賠償責任保険

全ての加盟員に対人（1事故最大5億）および対物（1事故最大500万円）の賠償責任保険を

付保し、万が一の際の損害賠償をカバーしている。

また、本年度より、日本連盟役員のパフォーマンスを補償し、安心して組織運営ができるよう会社役員賠償責任保険も付保した。

## 81-01 評議員会・理事会の開催

### 【理事会】

第1回理事会：5月11日（火）オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

1. 2020年度の事業報告について
2. 2020年度の決算について
3. 2021年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について
4. 任期満了に伴う名誉会議議員の選任について
5. 理事・評議員の交代・選任について
6. 名誉役員を選任・交代について
7. 特別委員会の設置について
8. 定時評議員会の議案について
9. 第18回日本スカウトジャンボリー（18NSJ）の開催形態について
10. (1) 2020年度全国大会の開催方法について  
(2) 第4回世界スカウト会議（オンライン）日本代表団の編成について  
(3) 事務局長・事務局次長に関する規程の一部修正について

第2回理事会：10月5日（火）オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

1. 2021（令和3）年度予算の補正及び事業計画の変更について
2. 2022（令和4）年度事業計画策定日程について
3. 2022（令和4）年度国の委託事業・公益団体等補助事業について
4. 常務理事の選任について
5. 県連盟コミッショナーの交代について
6. (1) 100周年記念募金の開始について  
(2) 第18回日本スカウトジャンボリー基本実施要項案について  
(3) 理事・監事並びに評議員選定委員会設置について  
(4) 第27回アジア太平洋地域スカウト会議日本代表団の編成について  
(5) APR各小委員会への委員の推薦について  
(6) 公印取扱規程一部改正について

第1回臨時理事会：11月14日（日）オンライン会議

1. 2022-2023年度理事候補者について
2. 臨時評議員会の開催について

第2回臨時理事会：1月11日（火）オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

1. 2021年度第2回臨時評議員会の議案について
2. 名誉役員交代について
3. SDGs協働事業（セブン-イレブン記念財団との協働事業）の実施について
4. 100周年記念事業計画および予算について
5. 第18回日本スカウトジャンボリー予算について
6. 災害（東日本大震災）に伴う登録料の支援を行うことについて
7. 静岡県・天城高原所有地の処分について
8. 定款、教育規程等の改正について
9. 日本連盟の立て替え払いについて  
(1) 第25回世界スカウトジャンボリー参加予納金  
(2) 共済「安全普及啓発活動事業（AEDの配備）」

第3回理事会：3月8日（火）オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

1. 任期満了に伴う理事・監事・評議員の選任について
2. 名誉役員の選任について
3. 2022年度各種委員会等の委員の選任について
4. 2022年度事業計画について
5. 2022年度予算について
6. 加盟登録料の減免について
7. 定款の改正について
8. 諸規程の改正について
9. 2022年5月開催の定時評議員会の議案について
10. 2022年5月開催の第1回臨時評議員会の議案について
11. (1) 2022年度全国大会について  
(2) 第19回日本スカウトジャンボリーの開催地について  
(3) ウクライナ情勢に対する日本連盟の動きについて

### 【評議員会】

定時評議員会：5月29日（土）オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

1. 2020年度決算について
2. 理事・評議員の選任及び理事の辞任について
3. 名誉役員の選任・交代について

第1回臨時評議員会：11月28日（日）オンライン会議

1. 2022年度理事の選任について

第2回臨時評議員会：3月8日（火）オンライン会議・一部日本連盟スカウト会館

1. 理事・監事・評議員の選任について
2. 名誉役員の選任について
3. 定款の改正について
4. 名誉役員の交代について

### 【運営会議】

構 成 員：〔2022年5月定時評議員会まで〕

奥島総長、水野理事長、大坪副理事長、佐野専務理事、膳師常務理事、出田常務理事

〔2022年3月31日まで〕

福島理事（日本連盟コミッショナー）、嶋田理事（国際コミッショナー）

|           |           |
|-----------|-----------|
| 開 催 日：第1回 | 4月 6日（火）  |
| 第2回       | 5月11日（火）  |
| 第3回       | 6月 8日（火）  |
| 第4回       | 7月 6日（火）  |
| 第5回       | 8月31日（火）  |
| 第6回       | 9月28日（火）  |
| 第7回       | 11月 2日（火） |
| 第8回       | 12月 7日（火） |
| 第9回       | 1月11日（火）  |
| 第10回      | 2月 8日（火）  |
| 第11回      | 3月 1日（火）  |

場 所：日本連盟スカウト会館・オンライン

### 【専務・常務会】

構 成 員：佐野専務理事、膳師常務理事、出田常務理事、福島理事（日本連盟コミッショナー）

開 催 日：第1回 5月 6日（木）  
（臨時） 7月19日（月）  
第2回 8月23日（月）  
第3回 9月18日（土）  
第4回 10月26日（火）  
第5回 11月29日（月）  
第6回 12月26日（日）  
第7回 2月 6日（日）  
第8回 2月22日（火）  
第9回 3月29日（火）

場 所：日本連盟スカウト会館・オンライン会議

### 【理事懇談会（第1回）】

日 時：10月 2日（土）14：00～16：50

場 所：オンライン会議・一部スカウト会館

出 席 者：佐野専務理事、ほか理事17人

内 容：理事会の議案の意見交換

### 【教育関係調整会議（第1回）】

日 時：11月13日（土）14：00～14日（日）12：00

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出 席 者：膳師・出田 各常務理事、ほか11人

内 容：1. 2022年の組織と体制について  
2. スカウティングの本質  
3. WOSM・APRとの共同と日本連盟の在り方  
4. ローバースカウティングとRCJの在り方  
5. 委員会の構成 その他

### 【評議員懇談会】

日 時：1月24日（月）19：00～20：30

場 所：オンライン開催

出 席 者：谷口議長、ほか評議員23人、理事4人

内 容：理事会からの検討事項などの共有と意見交換

### 【新任期理事研修会】

日 時：3月5日（土）13：30～6日（日）11：30

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

出 席 者：佐野専務理事他16人

内 容：1. スカウト運動と日本連盟  
2. 教育部門に関する連盟の方針と施策  
3. 日本連盟の運営と委員会等  
4. 日本連盟の財政  
5. DX・IT

## VIII. 参考（規程等改正一覧）

1. 公印取扱規程の一部改正について（総裁および総長の就任に伴うもの）  
承認：2021年10月 5日 理事会  
施行：2021年10月 5日
2. 教育規程第4章・5章の改正（隊指導者上級訓練の改定に伴うもの）  
承認：2021年11月28日 スカウト教育推進会議  
施行：2022年 4月 1日
3. 教育規程第1章・第9章の改正（環境教育の施行細則改定に伴うもの）  
承認：2021年11月28日 スカウト教育推進会議  
施行：2022年 4月 1日
4. 教育規程第5章・8章の改正（コミッショナー訓練の改定に伴うもの）  
承認：2021年11月28日 スカウト教育推進会議  
施行：2022年 4月 1日
5. 教育規程表紙・第1・2・4・5・6・8・10章の改正（登録制度の見直し、コミッショナーラインの明確化等に伴うもの）  
承認：2022年3月8日 理事会  
施行：2022年 4月 1日
6. 理事等役職者の役員に関する規程の新設（理事の職務権限規程を廃止に伴うもの）  
承認：2022年3月8日 理事会  
施行：2022年 4月 1日
7. 会員に関する規程  
承認：2022年3月8日 理事会  
施行：2022年 4月 1日
8. 名誉会議規程の改正  
承認：2022年3月8日 理事会  
施行：2022年 4月 1日
9. 委員会規程の改正  
承認：2022年3月8日 理事会  
施行：2022年 4月 1日
10. 感謝・表彰規程の改正  
承認：2021年12月20日 名誉会議  
2022年3月8日 理事会  
施行：2022年4月1日
11. 定款の全面改正  
承認：2022年 3月 8日 評議員会  
施行：2021年 4月 1日

## Ⅸ. ボーイスカウト（BS）エンタープライズ事業報告

一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズ（以下BSE）の事業年度である2021年2月1日から2022年1月31日までの販売実績は247,258千円（税抜き）で、前年比で約99%と（前年度は249,861千円）、税引き前利益は、15,103千円となった。

2021年度は、前年度から続くコロナ禍への対応による活動の影響による対応や、次年度開催のジャンボリーや100周年などの記念品などの制作に注力した。

### 1. 在庫の適正化、効率化

前年度に引き続き、各商品は適正在庫数量に調整を進めた。各商品の発注ロット数の見直しや受注販売などの展開を行い、倉庫の管理料などの固定費の削減を行った。

### 2. 新商品開発、新販売方法

日本連盟商品開発小委員会を中心に、ジャンボリーや100周年グッズの開発・販売に注力した。また、売れ残りによる在庫問題や、商品の付加価値などを考慮し、限定記念品の抽選販売方式に挑戦。様々な意見をもらうが、応募数や商品の完成度等は多くの方に高評価をいただいている。

### 3. コロナ禍への対応

コロナ禍の状況を踏まえ、スカウトショップ東京の運営に関して、蔓延防止などの発令中はもちろん、消毒や検温、入場制限なども継続的に行っている他、感染防止設備などの設置など、安心した環境づくりを行った。また、情報伝達に関してもSNSやメールマガジンなどのインターネット媒体をより活用し、素早い広報をつとめ、お店に来なくても購入できるOnline Shopの利用を増やした。

### 4. 職員の業務見直し

担当職員の離職や、4月より業務委託先の日本連盟事務局の新体制に伴い、企画から、仕入、販売までのプロセスを小人数かつスピーディーに行えるよう、担当職員の業務を再度見直しなどを行った。

### 5. その他

用品の販売の意味、意義を再確認し、適正な価格の設定を行い、都道府県連盟との関係、協力会社との関係を見直し、よりスカウト運動に貢献できる事業展開を今後も継続する。

以上

